287

特246
519

かきべも讀らか

—法究研學科會社—

無産社編輯部編

無産社版

1930

0034744000

0034744-000

特246－519

何から読むべきか

無産社編輯部・編

無産社

昭和5

AGC

特246
519

目次

(一) 知識は力である……(一)
(二) 讀書法……(三)
(三) 時間の利用法……(一四)
(四) 資本論の讀み方……(一五)
(五) 語學の研究法……(二四)
エスペラント語……(二四)
ドイツ語……(二七)
ロシア語……(三一)
英語……(三四)
佛蘭西語……(三八)
(六) 何から讀むべきか……(卷末)

序

階級闘爭が尖鋭化すればする程我々は精鋭な武器を持たねばならぬ。それは言ふ迄もなくマルキシズムであり、レーニズムである。

然るに今日迄の左翼出版物の刊行はコンマーシヤリズムとコンミニズムの狂奏曲であつた爲めに、讀者は選擇の岐路に迷ひ、購讀の負擔の餘りに大なるに苦しんで來た。本書を偏むに至つたものは實にこの輕棄すべき現象への對抗であり對策である。目標を初學者に置き、各三期に分け、順次研究を進めらるゝならば。大體勞少くして能率を上げ得ることゝ思ふ。この三期を終へられた方は、續いて各項目への研究に移つて一日も早くプロレタリアの理論を把握せられ、確固たる無産階級解放運動の戰士たられんことを望む。

尙本書に掲げた書は全部讀破したものでないので目的達成への萬全を期し得ない。切に大方諸氏の叱正を待つ。

一九三〇年八月

編者

無産階級に於ける理論の重要性

一、知識は力である

「學問」といふと、何だか勞働者や農民とは緣の遠い、近より難いもの丶様に考へられ、學者はその知識が此世に生れたものではなく、天からでも降つて來たかの様に、こ難かしい言葉や、秘密臭い私語口調で語るのである。然し實際には、如何なる學問も、その何れを採つてみやうとも總て人間社會から生じてゐる。要求のない處に學問は生じない。故に實用のない學問といふものは存在しない。換言すれば、有ゆる學問は人間の生活上に於ける實用實益の爲に生じたもので、人間が自然界に立つて生存競爭を行ふ爲の（卽ち自然界征服の爲の）最大の武器なのである。例へば、蠅や、又は道端にゐる雀の數を數へるものはないが、牛の群、羊の群は必ず精密に計算されてゐる。後者の數は人間に有用であるが、前者の數は不用だからである。つまり人間に益を與へる事實についてのみ、人間の智識が生ずるのである。斯くて人間は自然界の諸現象を觀察し、

諸々の自然力を研究し、その法則、その相互關係を發見し、その人間に對する善惡利害を判定しその善なる者はこれをとり、これを利用し、その惡なる者は之を防ぎ、これと鬪爭することゝなる。その智識、その武器が卽ち學問であり、諸種の科學である。

ブルジョア學者は現存社會を存續さす必要の爲に、科學をうち立てゝ來た。そしてそれは無產階級にとつて解り難いものであると同時に、不必要でさへある。然しそれは科學を不必要とするのでなく、ブルジョア科學の不必要を意味するのである。從つて我々無產階級は無產階級としての科學を絕對に必要とする。

資本主義下にある無產階級は、あらゆる不安と疑問の解決の方法をこの科學に求めねばならぬ。無產階級は其の鬪爭において常に斯樣な智識の必要に迫られる。他の諸階級との鬪爭を正當に導き得るためには、無產階級は夫等の諸階級が如何なることをするかを豫め見拔かねばならぬ。然しこれを見拔くには、種々な階級の態度が種々の事情の下で、何に依存するかを知らねばならぬ。無產階級が政權を掌握する迄は、勞働階級は資本の束縛の下に生活しなければならぬし、その解放戰に於て各々の諸階級が、如何に行動するかを絕えず考慮しなければならぬ。併しこのためには各々の階級の行動が何に據り、何に依つて決定されるかを知らねばならぬ。

斯る問題に答へ得るものは科學のうちの社會科學のみである。

社會革命の實際的仕事は、無產階級の科學的政策に依つて、卽ちマルクスに依つて創始された る理論の形態でプロレタリアートが有する科學的理論に立脚する政策によつてのみ、正當に解決され得るのである。

無產階級の行動は斯くの如く科學的基礎の下に進められるのである。從つて、吾々の最も恐るべきは無智である。智識なき者は、舟の艫を失せるが如く、人體に骨なきが如くに等しい。

智識は力である！

無產階級の歷史的使命もこの力なしには遂げ得られない。

二、讀書法

我々は智識をつける法には耳からの入る耳學問、目から入る目學問の二つであるが本書では主として「目學問」に就いての注意を列べ讀者の參考に供することにする。

一、書籍の選擇

書籍を選擇することは大切なことで、最少の勞をもつて最大の効を納めようとするには是非ともこのことを忘れてはならぬ。然しこの選擇ということは可なり難問題である。今日の様に翻譯書が洪水の様に出版されてゐる場合、到底一々然るべき批評を見てから購ふて讀む譯にゆかぬ。殊一出版物を一々嚴密な批評をしたものは殆どない。大概は本屋の御提灯を持つか、勢々目次位目を通して、批評するに止まる。少し良心のある人は、翻譯書の正否を論ぜず只、原書の價値を論ずるに過ぎない。最近雜誌「中央公論」が誌上で新刊書の「嚴正批判」をするといつて、この十月號より初めてゐるが、立場の點は別問題として、何れだけ成績が上るか見ものである。無産階級雜誌新聞の批評欄の如きもホンの付足りであり、お座成りであるので遺憾ながら、頼るべく餘りに貧弱である。

斯くの如く、讀者にとつて重大なこの事業が餘り振はないのは、この仕事自身が非常な苦心、努力を要するからである。本書に納めたものも大體この範圍を出てゐないのである。然し、この難事業を只難事業として放つておくよりは、多少なりとも讀者の便を計り得ればとの微意に出でたもので、讀者諸君もこの點に豫め御了解願ひます。

それでは、何うすればいゝのかと云へば、勿論充分の回答は出來ないが、先づ第一に著者又は譯

者を選ぶべきである。近頃の様に無責任な翻譯が横行する時は、殊に注意すべきである。勿論その目安を明確にすることはできないが、大體、發行所と著者が相當古く名のあの人である場合は信用してもいゝ。斯う云ふと新人、かくれたいゝ譯者に對して、甚だ相濟まぬ云分ではあるが、今の所何うにも仕方がない。別な方法として、然るべき人に問合すことも一法だと思ふ。當社などへも時々かうした問合せが來るので、それ〳〵の專門家知人の力をかりて能る限り責任ある返事をだしてゐる。

以上は大體著譯者のことであるが、その前に讀みたい又は研究の參考にしたい本の名であるが、この方は比較的選擇に樂である。先輩に聞くとか、然るべき出版屋に聞けば大體用が足りるであらう。東京朝日新聞社で發行してゐる「讀書欄」(月刊)の如き「新刊時報」「ブックレビュウ」の如き至極便利である。(編て無產社販賣)

二、精讀

讀書をする上に先づ心得ねばならぬことは、精讀と云ふことである。殊に初めの十頁を少々手間取つてもいゝから精讀しなくてはならぬ。言ふ迄もなく、著者々々によつて、多少の熱字や言葉の遣ひ方、書き方に相違がある。そこを飲込むのにも初の十頁である。少し我慢をして讀めば

讀了することが出來る。これに反して初めを粗雜に讀んで行けば、頁が進めば進む程、解り難くなり、從つて不愉快になり、遂には「投げ出し」てしまふやうにさへなる。であるから初めの十頁は一字一句も分らぬ所があつてはならぬ。一字でも分らぬ所があれば字引を引くなり、他の書物を參考にするなりして十分に其意味を了解せねばならぬ。さうすれば一頁一頁腦髓に印象づけられるので、更に次々と興味を感じつゝ進み得られる。

ラスキンもこの點を「書中の語を一々委しく調べて、其意味を一々深く考へ、一字一字に力を込めて讀まなければいけない。英語では「學問」といふ語や「學者」といふ語が「文字」といふ語から來て居るが、文字を澤山讀んだから、それで學者といふ譯では決してない。諸君の內で誰か非常に長生して、圖書館にある書を殘らず讀んでしまつても、依然として無學な、無教育たるを免れぬかも知れない。之に反して善い本を十頁位でも一字一字に力を込めて正確に讀んだ人ならそれ丈で教育のある人と稱せられるに充分である。教育のある人と無い人との區別は（今暫く智識の側から見て）此の正確に讀むと否とによつて定まる。澤山の外國語を知らないでも、自分の國語より外全く知らないでも、澤山の本を讀まないでも、教育ある人たるに妨ないのである。斯ういふ人は知つてゐることは必ず正確に知つてゐる。語ることは必ず明瞭に語る。」と云つてゐる。

次に心得ねばならぬことは、「著者の意見を知らんがためにその書を讀むので、自分自身の意見をそこに發見せんがためにではないこと」である。「もし批判する能力があると考へるなら、後で批評すればよい。最初はともかく之を理解しなければならぬ。また著者にして何等か價値ある人であれば、諸君は著者の意見をすべて一時に理解しうるものでないことを心得ねばなぬぬ」—ラスキン—

次に心得べきことは「考へる」ことである。「書を讀むことに依つて己自身が著者の心の中に入る、といふことである。他の言葉にて言へば、吾々は月を差す指を見たばかりでは駄目である。差す所の指を便りとして、其方向に在る月そのものを見なければならぬ。而して古人の書き遺した著書は、言はゞ月を差す指の如きものである。指それ自身が月で無いと同じやうに、著者に現はれて居る文字は著者の思想そのものでは無い。吾々は、著者に現はれたる文字を緣として、著者その人が嘗て見たる所のものを今自ら味ひ、著者その人が嘗て體得しなければならぬ。譬へば、月の美しさを如何に巧に書き現はしたる書を見るとも、月の美しさは其れば かりで眞實に味へるものでは無い。砂糖の味を如何に委しく書き誌しある書を暗記し居るも、砂糖の味は其ればかりでは到底眞實に解

るものでは無い。吾々は砂糖そのものを口に味はなければならぬ。其時吾々は始めて砂糖の味を體得するのである。而して一旦自ら之を味ひたる後は、其體得の効の大なる、之れに比すれば千百の書巻も畢竟日下の燈で、霊く無用の精粕である。既に此域に達する時は、吾々は縦横自在の言語を發することが出來、矛盾の中に調和を觀じ、調和の中に矛盾を看破することが出來、始めて他人の爲に翻弄せられず、自ら立脚の地を占めて、天下の學者の眞贋を識別し得ることになる。」河上肇

三、多讀

吾々は今日數へきれぬ書を比較的容易に見ることが出來る。これを封建時代に較べて見るならば實に幸福と云はねばならぬ。然しこの多數の書籍の裡で良書の乏しいやうに、ものを調べるに就いても、又研究するに就いても一、二の書籍を見て用の足りるものはなか〳〵ない。まして一科を研究しやうと思ふ者は必ず澤山の書籍に目を通さねばならぬ。殊に吾々と縁の深い社會科學の研究には殊更にこの感を深くする。

人間歷史の發展法則を發見したマルクスの研究した領域は、頗る多方面であつたが、彼は單に一寸觸れて見る丈であるといふ事はしなかつた。その個々の領域に於て獨自の發見をし、數學の領

域に於いてすら彼獨自の發見をしたのであつた。

マルクスにとつて、科學は一つの歷史的に動く所の革命的の力であつた。その實際的の作用が恐らく未だ豫見する事の出來ない何等かの理論的科學に於ける、一つの新らしい發見に對しても彼は喜びを持ち得た。殊にそれが直接革命的に産業や、一般歷史的發展に入り込む發見である時は、又別な喜びを感じた。それ故に彼は電氣學に於ける發展の發見、後にはマクク・ドウブレの發見をさへ研究した。

忠實な研究的精神と、學者的良心とに於て我がマルクスは多くの逸話をもつてゐる。彼が「資本論」の第二巻を書いてゐるうちに、たま〳〵露國に關する問題にぶつかつた。ところが此の問題を究めるには、是非とも露語の原書を一つ讀まなければならなかつたので、マルクスは遂に露語の學習を初めたといふことである。

彼は又、文藝の方面に豊かな智識をもつてゐたことは人の知るところであらう。殊に彼はディツケンスの作物を愛讀し、或は即席にディツケンス作中の人物に扮して、スクリーチ爺さんの聲白を使ひ大に人を笑はせたことがある。

マルクスと同じやうに、レーニンも又吾々にかうした多くの教訓を與へてゐる。一九〇五年の

革命の失敗に續いて一九〇六年以來、反動と沈滯の時代に彼は瑞西に亡命し、後巴里に亡命したが、當時の彼は非常に窮迫した生活を送つてゐる上に、病氣と營養不良に惱んでゐた。それにも拘らず勇敢に隱れた宣傳の外にマルクス主義の研究に沒頭し、衒もマルクスの著述は、最初の一字から最後の一字まで知るに至つた。ジノビエフはマルクス、エンゲルスに通曉する點に於ても、レーニンは世界中の二人か三人のうちに數へられるといふてゐる。唯にマルクスに通曉したのみでなくマルクスの學說を押し進め、更に新しい要素を加へて、之に新しい時代の新しい狀況を適合せしめ得た、極めて少數の人々の一人であつた。

熱烈にして勇敢な鬪士の一面とともに、冷靜な學者の一面をもつレーニンは、マルクスと同じように、英國博物館の寶物の探檢を怠らなかつた。彼は此の圖書館を、熱心に賞讚してゐたと同時に、この圖書館の話が出ると、何時でも彼の目は輝やいて來る。そしてその近くに住むことは彼の一番樂しい夢であり、彼の快心の休息を求めた所でもあつた。

巴里の二ケ年の生活も國立圖書館で送られた。そして驚くべき多くの書物を借り出して、ブルジョア學者をアツと云はしたこともある。哲學上の問題の研究に沒頭したのは彼が既に四十歳になつてからのことで、哲學上の著述を殘らず讀破して、唯物史觀の擁護に成功し、共產主義の基

礎を確立したのも此頃であつた。

一九〇五年——一八年の間レーニンはゼネヴアの回覽文庫の會員となつてゐたが、當時彼が借り出した書物の中には、純文藝の作物が少くない。モオパツサンの作物の如きも、秩序立つた研究したあとが分る。ユーゴー、ゾラ、シヤトリアン、ドオテー、ランソン、フローベル、バルザツク等の數多くの作品、ロスタンの「レイグロン」なども借りてゐる。

歷史、地理上の書物も隨分借り出してゐるが、その內にはスニイデルの「世界の形成」がある。朝鮮、支那、日本に關する書籍も借りてゐる。其他機械學、地理學、教育學上の書物も見えてゐる。

無產階級の指導者の書に對する態度が餘りにも立派な、教訓を殘してゐるではないか。如何に嚴格に、如何に細心に、ブルジョア學者の誹謗に答へるにこれ又餘りに立派であり、嚴肅なものではないか。

我國に於ける近時の出版界に現れた無責任なる翻譯、徒らに出版屋にこび、無責任を敢てしつゝある者に何と答へ、何をか云ひ得る。

四、讀書と筆記

大體上記の態度をもつて讀書を進めて來れば、必ず大切と思はれる點、尤と思はれる點、つまらぬと思はれる點が出て來る。そこでこうした點をそのまゝにしておいては注意を集中することが出來ない。そこで或る人は側線、點線を引く、まるを書く、感想を欄外に書く等色々であるが、これは相當大切なことである。自分の本である時はつゝいゝ、とめて書込む樣にする方がいゝ。よく圖書館の本に書入がしてあるが、その善惡は又それの賛否は別として、意外の注意を引いて役立つ場合が多い。そして讀了後、今一度この所を讀んでみるべきである。これは熱讀を助け、考へる上に且つ又、何か書く場合に、或は演說の筆稿を作る場合等に可なり役立つからである。然し、こうした記入をする際に、特別に骨を折らぬがいゝ、只解る程度に極く輕い氣持ちで書くことがいゝ。時經てそれが、間違つてゐやうと、幼稚であらうとそれは、それとして、自身の反省、又は進歩の程度を知る上に好い材料となるから。

殊に、マルクスの資本論とかレーニンの國家と革命、プハリンの唯物史觀、カウツキーの資本論解說の如き基本的な書に對する場合は殊にその必要を痛感する。

五、書くこと

書くことは、頭が整理されなければ出來ないものと言はれてゐるが、逆に、書くことは頭を整

理することにもならないだらうか。勿論こゝで云ふ書くことは著述の意味でない。といふて大學生が教室で教授の云ふことを機械的に筆記する意味や速記者が講演筆記をするの意味ではない。卽ち一書を讀み了へた時に、感想なり、その要點なりを書いてみることである。所でこれは一寸とやれぬ。多少忍耐がいる。一つには馴れであることも忘れてはならない。又書くといふことを餘り大げさに考へてはいけない。人に見せる見せないは別問題として、只頭にはいつたものを書いてみる、といふ心持ちで、多少初めは解り難いもの、意味をなさない、要點だけのものであつても、又詩の樣に一句々々列べたやうなものでも、是非書いてみるべきである。

野良で働いてゐる人であれば、晝食の後で昨夜讀んだ本のことを地に書いてみる、工場で働いてゐる人であれば指で壁に書いてみる等、必ず紙とペンを持つて書く許りが書くのでないのだから、何處でもやれることである。

この書くことを日頃から癖付けておけば、他日、色々な意味で有力な助となることがある。今日の學者、文學者も經路を詳細に調べて見れば、こうしたことの累積であり、蓄積である。重ねて云ふが極く輕い心持ちで、四角張らずやることを心すべきである。

三、時間の利用法

働いてゐる者にとつては讀書の時間などゝいふものは殆んどないと云へる。然し、これも考へよう一つで、いくら暇がないと云ふても、日に一時間や二時間はある。時間を作らうと思へば澤山ならいざしらず、一時間二時間の時間を作ることはそんなに難しくないと思ふ。ソビエット・ロシアの勞働者の樣に毎年夏になると各産業に從事する者が交替に避暑に行つたり、八時間制が嚴守され、讀書の機關が可なり備ふてゐれば又格別であるが、今の我々にはこうしたことを望むこそすれ、現實にあることではない。從つて少しの暇、少しの時間でも利用するより外はない。

少ない時間も積れば多きい、鞣皮工のディツゲンは人も知る、無產階級の哲學理論を大成した人であるが、彼が鞣皮工の職人として働いてゐる座席には、いつも書物がひろげてあつた。學問に對する彼れの驚ろくべき愛着と熱心とは、斯うした僅かの時間中の裡に培れて行つたことを見逃してはならぬ。

我等のある者は田園に長間時働らくことを餘義なくされてゐる、云ふに足らない程の時間しかもたない然し、レーニンの言ふ如く「革命的理論なしには、革命運動はあり得ない」のであるから、

秒分の時間を活用し、無產階級運動の最大の力である、理論と實際を密接に結付けねばならぬ。「自己の階級の自己解放に參加せんと欲する勞働者にとつて、第一に必要なことは、何事をも敎へ込まれることではなくて、自らこれを知ることである。……社會的鬪爭に於けるわが共同の敵たる資本についての知識は、すべての人々が攝取しなければならない、共同の階級的利益である」……（ヨゼフ・ディツゲン）

ディツゲンのこの意味深い言を讀者諸君の「讀書に對する原則、基礎的心得」として贈る。

四、カアル・マルクス資本論の讀み方

「資本論」は讀者をして、最初の一章に前齒を折らしむるといふ程にて、其難解なるべきことはマルクス自身、第一卷の序文中に述べてゐる。

歐米諸國に於ても「資本論を藏する者は多數であるが、能く之を解したものは稀であり、唯だ全部を通讀したものすらも少數である」といはれてゐる。米國の社會主義學者サイモンスが「勞働階級の聖書」と云はるゝマルクスの資本論は、常に信者の話題に上れども、通讀せしもの稀な

る一點に於いても聖書と相似てゐる」といつたのは誠に味ひがある。日本に於ても、專門の經濟學者から瞰分思切つた見當違ひの批評を蒙むる所から見れば、反對側の學者に依つても何の程度までに通讀せられ、理解せられて居るか疑問である。殊に最近改造社に於て十萬突破した「資本論」の賣行きが、はたして何れだけの通讀者を持つたか、すこぶる疑問である。

レツシングの言葉に

誰れかクロプシユトツクの如き文豪を賞めないであらうか？
されど誰れもが彼を讀むであらうか？——否。
我等は賞めらるゝこと少なく
讀まるゝこと多きを望む

近世著述家の中マルクスほどレツシングの此言葉が正當に適要され得る者はない。

「資本論」の第一卷第一章は商品の分析であつて、全卷を通じて最も難解な部分である。故にマルクスも亦夙の如く云つてゐる。

「發育した生體は、その組成分子たる細胞よりも研究し易いからである。加ふるに、經濟上の諸現象の分析に於いては顯微鏡も化學的反應料も用をなさぬ。抽象の力を以つて、この二つのものに代用せねばならぬ。然るにブルジョア的社會にとつては、勞働生産物の商品形態又は商品の價値形態は正に經濟上の細胞形態となつてゐるのである。素養のない人々には、之等の形態の分析は單に煩瑣な區別立てを玩ぶだけのものとしか見えぬであらう。成る程それに違ひないが、然しそれは顯微鏡的分析に於いてなされる區別立てと異なる所はないのである。」

之によつても、「資本論」の此部分が如何に重要であると同時に、また如何に難解であるかを想像することが出來る。そして此難解はマルクスの簡潔なる語法によつて一層難解を加へてゐる。然し全卷を通じて難解な譯ではない。そこで初學者は寧ろ幾分か根本概念と離れて、理解し易い部分から入るのが便利である。

それは先づ第四編第十三章(改造社版第一卷第一冊三百五十一頁)を開くがよい。本章は「機械と大工業の關係」を論じたもので、直ちに讀者をして實際生産社會の活舞臺に投ずる。聞く所は轟々たる機械の響と日常用ふる所の言語であるが、この音響と言語のうちに、未だ嘗て想像を得ない深刻なる意義のあることを了解するであらう。マルクスが機械に下した有名な定義を知るのもこの章である。生產に應用したる動力の變化は如何に共通の變化を全社會に與へたかを知るのもこの章である。

本章第一節の終りの數頁は、産業組織と社會組織との關係を詳論したものであつて、唯物史觀の適用を充分に理解することが出來る。又讀者は本章によつて機械が如何に勞働を節約し、此節約が如何に資本家の手中に歸しつゝあるかを知ることが出來る。

次に第七篇(改造社版第一卷第二冊五五一頁)に移る、本編は「資本の蓄積行程」と題し、近世資本家の傳記にして亦經濟史の研究である。マルクスは本編に於いて、資本の起原は勤儉によるものだとの說を破り、征服殺戮、掠奪が如何に資本の歷史的起原と離る可らざる關係を有したかを闡明にしてゐる。この編の第二十四章第一節「所謂本來的蓄積の秘密」(七〇八)に起りて六節第七節「資本制蓄積の歷史的傾向」に至つて全卷の勢力を集めて其高潮に達してゐる。此の部分は特に社會主義のクラシックと稱せられてゐるものであつて、同時に反對者がマルクスを難ずるのも主としてこの部分であり、正統マルクス派と修正派との岐れるのも亦この點にある。彼の修正派の驍將ベルンシュタインが鋭鋒を向けてゐるのも主としてこの第七節である。

以上の研究は、讀者をして資本主義的生産制度が、何處より來りて何處に往かんとするかを知らしめる。第一卷に於ける殘餘の諸章は資本制度が現在如何に運轉してゐるかを擧ばしめるものであるから、今度は飜つて第一篇を飜くがよい。第一篇は以上通讀し來つた術語が、如何なる深

遠な意義を有するかを知らしめるものであつて、今まで朧ろ氣に見てゐた所のものは、第一章の研究によつて初めて的確に補促することが出來る。斯くてマルクスの用ひた商品、使用價値、交換價値、勞働力等の術語の意義を明白にした上は、改めて第二篇より順次に通讀し、先きの諸篇をも重ねて讀破すればその意義は愈々明確となる。そして各篇を終るごとに卷頭の第一篇を全體の字典として參照せば益々印象を明かにすることが出來る。以上はサイモンスの說に從つて「資本論」第一卷に就いて研究の順序を示したものである。

第二卷第三卷に就いてはエンゲルスが獄中のアドラーに宛た手紙のうちに書かれてある。

「第二卷第一篇第一章貨幣資本の循環(改造社版五頁——三七頁(第三冊))を根本的に讀み給へ。さうすれば君は第二第三章を樂に讀み得る。第四章(循環行程の三公式改造社版七二—九〇以下改造社版)によるは要約であるから又正確に。第五章第六章はた易く、特に第六章は筋以外の事が取扱はれてゐる。

第二篇。第七—九章(一二〇—一五三頁)は重要。第十、第十一章(一五四—一九一)は特に重要第十二、十三、十四章(一九二—二一九頁)章又然り。これに反して、第十五、十六、十七章(二二〇—三一〇頁)は先づ引續いてゐる講義にすぎない。

第三篇三一一―四八四頁はフキジオクラート以來こゝに初めて取扱はれた資本主義社會に於ける商品と貨幣の總循環の全く卓越した叙述である。――內容は優れてゐるが、形式は恐ろしく難かしい。何となれば(一)、二つの相違つた方法によつて處理された二つの原稿から補綴されたものであり、(二)原稿第二は、週期的におこる不眠症の爲めに頭が惱まされてゐた病氣中に無理やりに書き上げられたものであるから。それを私は一番最後迄、卽ち第三卷の第一回目の仕事の後迄とつておきたかつた。それは君の勉强にとつても最初には未だ必要缺くべからざるものではない。

次に第三卷。

こゝで重要なのは、第一篇では第一章―第四章(五―五二頁)。これに反して第五、六、七章(五三―一一三頁)は總體的關係にとつては重要さは少ない、だから先づ多くの時間をそれに費ひやすことはない。

第二篇、第八、九、十章(一一四―一六六頁)は非常に重要だ。第十一、十二章(一六七―一七七頁)はそれの補論である。

第三篇。第十三―第十五章(一七八頁―二二八頁)全部非常に重要だ。

第四篇。同樣に非常に重要だが、第十六―二十章(二二九―二九五頁)は容易く讀める。

第五篇。第二十一章―第二十七章(二九七―四〇二頁)は非常に重要。二十八章(四〇三―四二一頁)はそれ程ではない。第二十九章(五頁―一七頁(第五冊))は重要。全體として君の目的には第三十―三十二章(一八―六〇頁)は重要ではない。紙幣等が問題にされると第三十三、三十四章(六一―一〇五頁)は重要であり、國際爲替相場に就いては第三十五章(一〇六―一三三頁)が重要だ。君にとつては第三十六章(一三四―一五三頁)が非常に興味があり、且つ讀むのに容易だ。

第六篇。地代。第三十七―三十八章(一五五―一八七頁)が重要だ。三十九章、四十章(一八八―二二三頁)は重要さは少ないが併せ讀むこと。第四十一―第四十三章(二二四―二七八頁)はもつと等閑に附してよい(一々の場合には差益地代論第二)第四十四―四十七章(二七九―三五一頁)は亦重要で、大ていは樂にも讀める。

第七篇。は大へん立派なものだが、惜しい哉トルソーだ。そしてその上不眠の强い根跡がある若しも君がこれによつて重要事項を根本的に、重要の少ない章を先づざつと讀むならば(この前の第一卷の主要事項をもう一度讀むのが一番よい。)君は全體に就いて見透しがつくであらう。そしてそれから等閑に附した個所をもヨリ容易く知り盡すことが出來るだらう」。

ゾンバルトは『資本論』三巻を通じて左の如き研究の順序を薦めてゐる。

一、第一巻＝第三、四、七編
二、第三巻＝全部
三、第一巻＝殘部
四、第二巻＝全部

尙調田徳三氏は次の順を示されてゐる。

一、第三巻＝第一章から二十八章まで
二、第一巻＝第三、四編
三、第二巻＝全部
四、第三巻、第二十九章以下全部
五、第一巻＝、第七編
六、第一巻＝第五、六編
七、第一巻＝第一、二編

尙第一巻の研究に就ては（一九二七年）青年コンミンルルン執行委員會で發表してゐる意見によ

れば、第一編と第二編とを順々に讀むがいゝ。それに續いて第三篇、一般的剩餘價値の生産から第九章まで。そこへ行くまでには絶えず或る困難に打ち克つて行かなければならないから、主として歴史的性質の內容をもつた第十一章、第十二章、第十三章を讀むがよいと思ふ。それについで第十七章から第二十章まで讀むべきであり、それに關聯してはじめて、相對的剩餘價値を取扱つてゐる、第十四章から第十六章までが讀むべきである。そして一番最後として第七編が加はる。」

筆者——以上は筆者の手元にある材料によつて、あるものはそのまゝ借用したものが多い。然し一々その出所を明記しませんでした。こゝに、讀んで原著者、譯者諸氏に感謝ゐたします。

エス語の研究の爲めに

マルクスが「共産黨宣言」に於いて「萬國のプロレタリヤ團結せよ」と結んで居るが、言語の相違と階級闘争の微弱の爲め、プロレタリヤの國際的團結も具體的行動に移らなかつた。我々は今總べてのエネルギーを發揮して、全プロレタリヤの文化と解放への道のために國際語エスペラントを學ばなければならない。

ソヴエット政府がエスペラント普及のために補助金を支出し、ドイツ、フランス等の共産黨機關紙がドイツ語、エスペラントの對譯を使用し、近くはインプロコール社發行の「國際無産者通信」にエスペラント對譯が設けられ、或はエスペラント譯「レーニン選集」を世界のプロレタリアに捧げんとしてゐる。

近着の「ヘロルド・デ・エスペラント」誌に依ればスエーデン社會民主黨大會に於て萬場一致にてエス語を各學校及全世界のプロレタリアに教授する樣決議してゐる。既に歐米に於てブルジョア

の反動教育語として利用されてゐる際、我々が之に對する闘争を放棄すれば、プロレタリアの一半の任務を看過するものと云はなければならぬ。

× ×

如何にしてエスペラントを學習すべきであるか。或は講習會なりに出席して一通りの文法を修得するのも一方法であるが、時間の關係もあるので、先づ獨習の方法を選ぶより他あるまい。獨習書と辭書を購入して研究の第一歩へと出發しなければならない。諸君が既に他の外國語に通じてゐるのであつたら、大した努力も必要ではないが、エス語も人間の思想そのものを表現するのであるから、相當の研究に要する時間は拂はなければならない。獨習書としては大日本エスペラント會から石黒修氏の「新エスペラント講座」が刊行されてゐる。全三卷で會費三圓であるが、今日まで日本で刊行された獨習書としては第一に上げ得る。

叢文閣から秋田雨雀、小坂狷二共著「模範エスペラント獨習」（一圓）

日本エス學會小坂氏の「エスペラント捷徑」（一圓）が出てゐる。共に良獨習書であるが「捷徑」の方は中等程度の外國語を學習した者への獨習書であるから、外國語に通じないものには餘り適しない。尚日本エス學會から「エスペラント初等講

座」(二十錢)が極めてやさしく文法を講義してあるので、此の書で一通りの研究を終へて何れかの獨習書を反覆精讀すべきである。辭書の方はどうしても備へなければならないが、日本エス學會から「新選エスペラント和辭典」(七十五錢)と日本エス協會から世界的文法家として有名な千布利雄氏の「大成エス和辭典」(一圓)が發行されてゐる。兩者とも推奬すべき辭典である。辭書で吾々プロレタリア用のものは絶無であるが、近くインプロコール社から發刊されるので、無産階級に取つて祝福すべきである。又和エス辭典であるが差當り必要ではないが、前に日本エス協會から千布利雄氏著「大成和エス辭典」(五圓)及小形のものでは京都カニヤ書店から三高エス會編の「日本語エスペラント小辭典」(一圓)が發賣されてゐる。

毎日三十分なり一時間なり講義錄か獨習書は缺かさず、研究する樣努め、一通り終つたらASTT刊行の „Petro" (ペートロ)といふプロレタリア講習書を辭書を引き乍ら讀まれたなら、容易に讀破することが能る。又イスクラ閣から最近發行された「勞農エス講習書」(四十錢)は總べてマルクス、レーニンの論文から敎材を取つてゐるので、一讀に値する。次は進んで對譯ものに入るべきであるが次の如きものが刊行されてゐる。

イソップ物語 ●四〇

プレーメンの音樂師 (アリム) ●二五

王樣の新しい御衣 (アンデルセン) ●二五

心の片隅 (スタマトフ) ●五〇

燈臺守 (シエンキヰツチ) ●四五

海の娘 (アンデルセン) ●一・二〇

マルクス主義の三つの源泉及び三つの講成要素 (レーニン) ●三〇

右の書で一通りのエスペラント文が字引を用ひ乍ら讀める樣になつたら日本語混りの日記を毎日記入する事及外國の同志と文通する事を勸める。始めは繪葉書位から進めて段々文に慣れるに隨つて同志に宛て質問を發するのも、又非常に得る處があらう。

獨語の研究の爲めに

「總て端初は困難である、といふ事は、あらゆる科學に妥當する」又「學問に取つて平安の大道はない、そしてその險阻な小徑を攀じ登るに疲れることを恐れない人々のみが、ひとりその輝

ける絶頂に到達するの仕合せをもつてゐる」とマルクスは云つてゐる。

凡そ語學の初歩位無味乾燥なものはない。能ふべくんば是非に良講師に就くを必要とする。が必ずしも獨習が不可能なのではない。從來の演繹的な獨習書ではさらでだにイヤなものが益々イヤになつて了ふ。此の無味乾燥さから幾分でも救はれるには、良獨習書を選ぶ必要がある。

ドイツ語の獨習書には

柏谷洋	獨逸語獨習	二・五〇
都文堂	獨逸語講座 六冊	七・二〇
日獨書院 谷口、小笠原	正則ドイツ語講義合本	四・〇〇
内山春升	最新獨逸語獨習	一・五〇

等がある、色々の點で最後のそれを推したい。三六判二九三頁の極く小さな本である。がABCの發音から日常の簡單なる會話に至る迄一通り獨習書の面目を遺憾なく具備してゐる。且つ此の獨習書は、その最大の特徴として歸納的方法で書いてある。

「元來文法上の煩瑣な規則や理論を最初から機械的に教へ込まうとするのは實に不自然極まる

事であつて、全く無趣味な事に對して努力を强ひるのである。「凡そ修學の要は唯眞面目に勉勵するのみならず常に愉快と自由の精神とを以てこれに對するにあり」とゲーテが云つた如く興味を持つ事が修學上の緊要に屬するのである」と著者は云つてゐる。これ此本を推す所以である。

獨習書として此本を讀まれた初學者に續いて、誰でもがする樣に極くやさしいお伽噺の本を推奬する。差し當り日獨書院刊行の「グリムのお伽噺」(價一、五〇)が好適だらう。脚註付獨和對照譯である。グリムの文は獨逸文の典型的なものだ相である。此意味に於ても又最も大切な讀書力を養ふ意味から云つても此選擇は極く當を得たものであると信ずる。續いて世界的に有名なレクラム叢書の中から、グリムやアルデルゼンのメルヘン(お伽噺)を選んで讀書力を養ふのが良い。

此次が問題である。右に續いて小說戲曲を讀まれるも良いだらう。又大抵の人はさうした方法をとるのだが、我々は玆で直ちに社會問題關係の極く平易なパンフレットを讀まれる事を推したい。學問に於ける「輸組な小道」が玆から初まる。隨分適當な本があるのだが、マルクスの「勞賃、價格、利潤」(英文は「價値、價格、利潤」となつてゐる。)を推したい。贅言する迄もなく此本は「一八五六年に起草されたもので、その時には既に「經濟學批判(一八五九年刊)は出てゐたし、又「資本」の第一卷(一八六七年)が出たのもそれより間もなき後のことであり、なほ資本論

第三巻の草稿の主なる部分は、第一巻以前に出來てゐたのだから、資本論に現はれてゐる經濟論の大體の輪廓は此草稿の起草された當時、既にマルクスの頭に明白に描かけてゐたに相異ない。勞働問題、勞賃問題につき、彼は果して如何なる經濟論を立てたか。それを手早く知るのにもつて來いの本である。更に之は「インタアナショナル」の總會で述べた演說の原稿である丈に極めて平易に書いてある。字引と首ツ引ではあるが、マルクスの書いたものに直接接し得る愉快は、格別である。勿論此の小道は可成險岨であるが之を攀じ上つた者丈が、ひとり其輝しい絶頂に到達出來るのだ。

ヨーロツパ語の內でドイツ語は最も文法の完全な語である。だから此處迄來た諸君が、更に一段の努力をするならば資本論の讀破も强ち不可能とは云へない。

最後に辭書の問題である。獨和辭典の評判は登張氏のものに集つてゐる。が初學の諸君はあまり適當ではない。寧ろ登張の獨和辭典一冊の價(三圓)で獨和と和獨の兩辭書の買へる有朋堂の三浦吉兵衞植田保之助共編の袖珍辭典を推したい。英語から轉化した語などが登張のには少く植田三浦のそれに多い。又組立名詞(ドイツ語には獨立の詞で二字も三字も組立てゝ詞を拵へる事が頗る多い)の數なども後者に多い樣に思はれる。

ロシア語の研究の爲に

凡ての歐羅巴語のうちでロシア語程難解であるといはれたものはない。文法に於て殊にさうである。然し、我々は今日徒に從來のかうした事實に辟易して無關心であり得なくなつた。云ふまでもなくロシア革命の成巧と同時に吾々とは緊密な關係が生れて來た。彼地に於ける新事件、新施設等々一つとして我々の注意を喚起しないものはない。たゞにマルクスのロシア語の研究を初めた動機とは別の意味に於て、學ぶもの〻多く、從つてその難解をかこつものが多い。堺利彥氏も第一次共產黨事件による入獄中、ロシヤ語を始められたさうであるが、中途にして放棄せられたと聞く。今日ロシア文の翻譯に於ても可成の誤譯がそのまゝ流布されてゐるなどは、我陣營內に於ける「露語通」の如何に少きかを知るに足る。又露語の書籍の入手に苦心を用することは德川時代に於けると殆んど同じと云つていゝ。極めて稀に、例へばブラウダの如き我國には數部しか入つていない。この點から見ても露語研究者の一日にならないことが了る。特に獨學に於ては殆んど不可能といふていゝ。左記に揭げた研究法と平行して然るべき師につかれたなら敢へて「難解」の語にかくれて逃げる物奇者のそしりをうけないですむであらう。

先づ第一に注意すべきことは、いくつかの入門書を手にしないこと、必ず一書に集中して必ずやり通すことである。そして長くなくとも毎日必ず一時間でも三十分でも復習なり、前に進むなりすることである。その参考書としては左記の二種がある。

中村莊太郎
古田信治著　**新ロシア語講話**　二・〇〇

八杉貞利著　**ロシア語階梯**　二・〇〇

この裡、いづれか一つをやり、或程度まで進んだ時に、そろ〳〵辭典を引き初めたらいゝと思ふ。辭典はこれがいゝ。

鈴木於菟平
八杉貞利
松本圭亮著　**露和大辭典**　七・五〇

これが完了したならば、そろ〳〵露語原本の易しいものを字引と首引で讀み初めたらいゝ。

プーシキン著　**共産主義のABC**　一・八〇

は最もいゝ。然し入手し難いから、

八杉貞利著　**初等露語讀本**　一・八〇

で我慢するより外ない。それから文法の復習の意味で

八杉貞利著　**初等ロシア語文法**　一・八〇

を讀むべきである。

最後に讀むべきは

アレーポフ著　**ロシア文法**　定價四圓七十錢　實價八圓

であるが版元で絶版になつてゐるので、古本でも馬鹿に高く、それもなか〳〵無い。然しいゝ本であるから一讀を薦める。

これで一通りの順序を了へたのであるが語學に限らず總てが研究者の態度如何にあるので、殊にロシア語の研究は根氣よく、繼續した者の勝利である。効を急がず、ヂリ〳〵とやることを忘れてはならない。

註　（露原文の取寄せ方、研究に就いて希望者は、一應無產社まで住所姓名を御知らせおき下さい。方法が出來次第御知らせしますから。）

英語の研究の爲めに

英帝國に太陽沒することなしと云はしめた英國！　それは地球の全面至る處に己が領土を有したからこそ發せられた豪語である。それは又英資本主義が地球の全面に亘つて己が勢力を扶殖してゐたこと、全世界を己が資本の前に雌伏せしめてゐたことを物語るものである。而も資本主義は自分の巢食つた處を總て己が姿に似せて創造するが故に英資本主義は己が總てのものを全世界にふりまわすに至り、かくて彼等の國語英語は殆んど世界語とまでなるに至つた。

書が國においても外國語と云へば英語！　とまで思はしめる程になつており、高等小學、中學を始め各學校で正課として教授してゐる程で吾國における外國語界の覇者である。

然らば、か程までに普及されてゐる英語はその學習において容易であり、直ちに熟達するものであるかと云ふに、恐らく是位厄介なものはなく、やつても〳〵一向ヤマの見えないものも亦少くないであらう。とは云へ又獨習する外國語の內で此英語ほど凡ゆる便宜があり、獨習書及手引書の數多いこと等も亦少くないであらう。從つて英語自體としてやれば是位むづかしい語學はないが、單に「讀める程度に」又は「辭書と首引きでやる程度に」至るには是位獨習し易いものもなからう。」

さて學習の態度についてゞあるが、マルクスが云つた「凡て端初は困難である」の言はそのまゝ英語の學習にもあてはまるのである。初じめは困難であり而も無味乾燥である。然し初めが困難であればある程それは大事なのであり、此困難に堪へ、此無味乾燥を忍んだ人々のみがやがてのびる人であり、高峰の月を望むことの出來る人々である。だから吾々は先づ此困難を克服し、此無味乾燥を通過せねばならない、それをなすには全く自らの努力より他になく、語學の上達は全然此努力の二字に歸するものであつて是に正比例してのみ進んでゆくものであり而も此努力はとぎれ〳〵のものであつてはならない。それは不斷の持續的なものでなければ何等の効果もない日に一時間とか二時間とかきめてこれを毎日續けてゆくことである。

さて獨習者は如何なる本から手を付くべきかと云ふに、大同小異の獨習書が餘りに多くして一寸戸迷ふ、何れを手にしてよいか面食はざるを得ない、だが何れを取つてもたいした變りはないやうに思はれるが、私は便宜上左記の三書を先づあげてみやう。

初歩英語ABCから　內山貞治著　有精堂發行　一・四〇

ABCより會話まで初等英語自習書　一・二〇　初等英語指導會編　創生社發行

ABCの讀み方から　一・五〇　山崎貞著　北星堂發行

以上の三書各々特徴がある。内山氏のはABCの讀み方から單語を經て短文を讀むに至るまではかなり丁寧であるがそれ以後は餘りない。山崎氏のはABCから始まり會話及英語の手紙の書き方まで包含してゐるから或は一番の手頃かも知れない。是で先づ基礎をしつかりつくつて次いで「イソップ物語」でも譯註をたどつて讀むことである。「イソップ物語」の譯書も隨分あるが最近、英文學社から出た佐藤正治氏譯註の「イソップ物語」(五〇錢)が最もよからう。だが之は講座ものだから手には入り難いかも知れない。文信社發行の市川又彦氏譯註の「イソップ物語」(一、〇〇錢)でもよからう。是で英語に親しめると云ふ程度になつたのであるが此邊で月刊の英語雜誌の「初等英語」とか或は「一二年の英語」とか云ふやうなものを讀むのも一便法である。是等を基礎として譯書を賴りに辭書と首引きで何かリーダーを讀むべきである。それには古くからある「ナショナル・リーダー」とか「ユニオン・リーダー」等が最も適當ならん。數ある譯書の内で安價なる點では岡村書店發行の「ポケットナショナルリーダー獨習」(六〇錢)を押すが、より詳しく親切に書いてあ

るのは北星社發行の山崎貞氏の「ナショナルリーダー」譯註(一、〇〇)である。譯書から得る利益は無論後者ならんも、コツ〳〵自分でやる積りなら前者でも惡からう筈はない。さて是をII、III、IV、頃まで、續けてやると辭書を賴りにどうにか一通り讀めるやうにもなるから手當り次第に色々なものを讀んでみるとその内には自然と自分の力も出て來ると云ふものだ。

さて此邊で吾々は無產階級の理論を勉強しながら兼ねて語學をやる法を採るが最上の得策と思ふ。辭書を賴りにしてプヘーリンの "ABC of Communism" をコツ〳〵やることだ。是は英語も非常にやさしいし、理論も分り易く書いてあるので一擧兩得と思ふ。或はマルクスの "Wage-Labour and Capital" "Wage, Price and Profit" 或は "Wage-Labour and Capital" を譯書を賴りに一句々々讀んでゆくのも亦得る處多いと思ふ。譯書は河上肇氏譯の前者は、岩波文庫「勞賃、價格、利潤」(二〇錢)後者は弘文堂から「賃勞働と資本」(二〇錢)がある。是等を讀みあげたら最早英語で「資本論」を讀んでも何等不自由を感じないであらう。

さて語學の勉强になくてならぬ辭書についてゞあるが、英語の辭書と云へば齋藤、岡倉、或は三省堂新英和等々と思ひ出されたが、成程是等を持つに越したことはないが何分高價だ、一寸近づき難い、それで三省堂發行のコンサイズ英和辭典(二、〇〇)が手頃と思ふ。譯語もかなり豐富

で正確だ。私は之を勸める。其他英語學習には、文法及厄介なイヂオム(慣用句)がある。然し是等は最初から特別研究せずとも必要に應じてやるべきで且つ又一通りのことは讀書する內に理解出來るに至るものである。

最後に英語學習についての最大難關である單語の記憶であるが、之は辭書を棒暗記しても始まらない、勞力に比して何等役立つものでない、で私は以下の方法を勸める。それは第一に三省堂か有朋堂等から出てゐるポケット用の小さな和英辭書を買つて之を常に携帶する。第二に吾等の周圍の事物を總て英語で考へる。例へば、吾々の居る工場を工場と考へないですぐ Factory と考へ、目前に動いてゐる機械を Machine と思ひ、貰ふ賃銀を Wage と考へることである。それはムヅカシイものから始めるのではなく自分の周圍のもの、眼に觸れるものから始めていけばよいわけである。そして目に觸れたもので思ひつかぬもの、或は全然知らぬものは和英辭書を出してそれをひいてみる、かくて段々單語の數を殖してゆくのである。

フランス語の研究の爲めに

獨學者の入門書として第一に擧げ得るものは

前田越嶺著 **佛蘭西語獨習** 三・〇〇

次に初等文法書として

內藤濯著 **實習佛蘭西文典** 一・七〇

佛蘭西文學會 **佛蘭西動詞の變化の栞** 一・〇〇

上記の學習を終へたならば左の書を研究すべきである。

前田越嶺著 **フランス文法獨修** 一・六〇

技竹倫著 **詳解佛蘭西文典** 二・〇〇

以上文法の初步を規則的に進めて、他は平易な社會問題關係の書例へば共產主義入門等を字引を引きながら讀むか、平易な童話物を讀んで、極力讀書力を附けることである。

尤も會話の點は多少今迄の學習法では不備であるが、大體今迄の所が骨子であるから特に會話の本を讀めばすぐ役立つと思ふたら間違ひである。然し澤山出てゐるうちで一番いゝのを一寸紹介しておく。

ウユ・アスケ著 **實用日佛會話** 一・五〇

次に大切なのは辭書であるが、社會問題に關する語を網羅したものといふものは少ない。あつてもトンチンカンの譯になつてゐるので役に立つのは少ない。左に掲げたものは今日普通に用ひられてゐるもの、最上のものである。

白水社　模範佛和大辭典　九・〇〇

佛蘭西文學會　新佛和小辭典　二・八〇

丸山順太郎　和佛辭典　三・八〇

何から讀むべきか

—社會科學研究法—

何から讀むべきか

目　次

勞働者は何から讀むべきか……(1)
農民は何から讀むべきか……(4)
無產婦人は何から讀むべきか……(6)
小商人は何から讀むべきか……(9)
智識階級は何から讀むべきか……(11)

經濟學……(15)
唯物史觀……(18)
帝國主義……(19)
政治學……(20)
哲　學……(21)
農村問題……(23)
婦人問題……(24)
青年運動……(26)
勞働運動……(26)
宗教問題……(27)
教　育……(28)
天文・地文……(29)
物理化學……(29)
生　理……(30)
生物學……(30)
日本歷史……(31)
世界歷史……(32)
法　律……(33)
民族問題……(34)
人口問題……(34)
消費組合……(35)
世界の狀勢……(35)
未來社會……(36)
プロレタリア小說……(37)
美術，劇と映畫……(42)
詩　歌……(42)
文　學……(43)
年　鑑……(44)
地　理……(44)
傳　記……(45)
雜，論文集……(46)
辭　典……(46)
雜誌新聞……(47)
外國新聞雜誌……(49)

勞働者は何から讀むべきか

（第　一　期）

（著譯者）	（書　名）	（定價）	（送料）
小伏漢太郎	今の世の中……（無）	10錢	02
山川均	タンクの水……（上）	10	02
同	人柱……（同）	10	02
住谷悅治	プロレタリアの使命……（勞）	10	02
河野密	人一生の經濟學……（同）	10	02
中村義明	メーデーの意義と歷史……（同）	10	02
堺利彥	社會主義大意……（無）	10	02
中川重吉	勞働組合早わかり……（大勞）	10	02

（參　考　書）

堺利彥	いかけ松……（無）	10	02
荒畑寒村	停　電……（同）	10	02
阪本勝	一錢銅貨物語……（大勞）	10	02
堺利彥	一休と自來也……（無）	10	02
細井和喜藏	女工哀史……（改）	40	08
ミウレン	赤い少年……（無）	50	04
堺利彥	社會主義の世になつたら……（文化）	20	02

無産社篇	プロレタリア歌曲集……(無)	30	02

（第　二　期）

堺　利彦	貧富戰と男女戰……(中央)	1.00	12
山川　均	資本主義のからくり……(農)	30	02
同	無産者講話……(無)	50	04
マルクス	勞働と資本……(無)	15	02
同	利潤の出處……(同)	20	02
山川・田所	プロレタリア經濟學……(叢)	70	06
堺　利彦	社會主義學說大要……(無)	30	04
近藤榮藏	失業と無産階級……(無)	15	02
山川　均	社會主義の話……(千倉)	1.50	12
ハインドマン著 堺　利彦譯	社會進化の過程……(無)	15	02

（參　考　書）

堺　利彦	ロシア革命十一月七日……(無)	20	02
同	パリコンミユンの話……(同)	20	02
ゴルキイ	母……(改)	1.20	12
ヒヤトニツキー	革命の陣頭に立ちて……(共)	1.00	10
同	マルクス主義への道……(共)	1.00	10
スターリン・クルプスカヤ 爪生信夫譯	人間レニン……(希)	80	08
勞研編	勞農辭典……(勞研)	70	06

辻井民之助	無産青年に與ふ……(勞研)	10	02

（第　三　期）

赤松克麿	日本勞働運動發達史……(文化)	1.00	10
田所輝明	歐洲社會運動史……(白)	2,00	12
野坂　鐵譯	勞働組合論……(上)	60	C6
高橋貞樹	工場内の組織運動……(勞研)	20	02
山川　均	勞働組合と無産政黨……(無)	20	02
山川　均	勞働組合の方向轉換……(無)	50	04
レーニン著 堺　利彦譯	左翼小兒病……(無)	30	02
青年コミンテルン編	無産者政治教程（1）……(叢)	50	04
堺　利彦	辯證法的唯物論の話……(無)	10	02
山川　均	辯證法的唯物論とは何か……(同)	10	02
レーニン	勞働者と農民……(共)	50	04
エンゲルス著 堺　利彦譯	社會主義の發展……(白揚)	70	08
スターリン著 近藤榮藏譯	プロレタリア政治學……(無)	60	04
レーニン著 河上　肇譯	國家について……(永田)	30	04
山川　均	インターナショナル史……(日評)	90	10

（參　考　書）

奈良正路	無産者法律必携……(同)	1.00	12
シンクレア	スパイ……(共)	1.00	10

勞研編	新工場法解說……(勞研)	30	02
クロポトキン著 大杉栄譯	一革命家の思出……(森)	2.80	18
パンネコツク著 堺利彦譯	社會主義と進化論……(無)	20	02
クルプスカヤ	レーニンの思出……(震)	60	08
ヤロスラウスキー	イリツチレーニン……(希)	1.30	10
近藤栄藏	プロレタリア雄辯學……(平凡)	80	08
同	プロレタリア演說集……(同)	80	08

農民は何から讀むべきか

(第一期)

小伏濱太郎	今の世の中……(無)	10	02
同	農民の今日と明日……(勞研)	25	02
河野密	人一生の經濟學……(同)	10	02
堺利彦	一休と自來也……(無)	10	02
住谷悅治	プロレタリアの使命……(勞研)	10	02
堺利彦	社會主義大意……(無)	10	02
中村義明	メーデーの意義と歷史……(勞研)	10	02

(參考書)

堺利彦	いかけ松……(無)	10	02
辻井民之助	無產青年に與ふ……(勞研)	10	02
阪本勝	一錢銅貨物語り……(大勞)	10	02
ミウレン	赤い少年……(無)	50	02

同	小さいペーター……(無)	30	02
荒畑寒村	停電……(無)	10	02
無產社編	プロレタリア歌曲集……(無)	30	02

(第二期)

山川均	資本主義のからくり……(農)	30	02
マルクス著 堺利彦譯	勞働と資本……(無)	15	02
同	利潤の出處……(無)	20	02
堺利彦	社會主義學說大要……(無)	30	02
杉山元治郎	農民組合の理論と實際……(農)	80	08
レーニン著 竹尾弌譯	貧農に與ふ……(マ)	50	06
青年コンミンタン編	無產者政治教程(1)……(震)	50	06
同	同 (2)……(同)	50	06

(參考書)

勞研篇	勞農辭典……(勞研)	70	08
堺利彦	ロシア革命十一月七日……(無)	20	02
同	パリ・コンミユンの話……(無)	20	02
杉山元治郎	農村振興策の批判……(農)	10	02
水谷長三郎	法廷に於ける小作爭議……(同)	80	06
布施辰治	小作爭議法廷戰術……(希)	1.20	08

(第三期)

山川均	無産者講話……(無)	50	06
稻村隆一	日本に於ける農村問題……(叢)	80	12
レーニン著 直井武夫譯	農民と勞働者……(共)	50	04
マルチノフ	マルクス主義と農業問題……(上)	80	10
スターリン著 近藤榮藏譯	プロレタリア政治學……(無)	60	04
ミリウチイン著	農業問題……(希)	40	04
大西俊夫	農民運動の道……(同)	80	04

（參考書）

近藤榮藏	プロレタリア經濟學……(平凡)	80	08
同	プロレタリア演說集……(同)	80	08
レーニン	ロシア農村問題……(希)	90	06
小岩井淨	農業法制彙集……(上)	90	06
和田叡三	自作農創立と農業問題……(同)	60	40
カーペンター著 堺利彥譯	自由社會の男女關係……(文化)	30	02
ファブル著 大杉榮譯	自然科學の話……(ア)	1.50	12
小林多喜二	不在地主……(評)	30	04
中西伊之助	農民の家……(共)	1.50	15
ゴルキー	母……(改)	1.00	12

無産婦人は何から讀むべきか

（第一期）

小伏演太郎	今の世の中……(無)	10	02
井上ふみ子	女工物語……(大勞)	10	02
堺利彥	社會主義の世になつたら……(文)	10	02
辻井民之助	無産青年に與ふ……(勞研)	10	02
クロポトキン著 大杉榮譯	青年に訴ふ……(勞運)	10	02
堺利彥	社會主義大意……(無)	10	02

（參考書）

荒畑寒村	停電……(無)	10	02
堺利彥	一休と自來也……(同)	10	02
同	いかけ松……(同)	10	02
ミウレン	赤い少年……(同)	50	04
同	小さいペーター……(同)	30	02
中村義明	メーデーの意義と歷史……(勞研)	10	02

（第二期）

堺利彥	婦人問題の本質……(無)	10	02
山川菊榮	婦人と無產政黨……(同)	10	02
近藤榮藏	新ロシアの婦人……(同)	10	02
堺利彥譯	自由社會の男女關係……(文化)	30	02
野坂龍子	婦人と勞働組合……(勞研)	10	02
堺利彥	貧富戰と男女戰……(中央)	1.20	12
マルクス	勞働と資本……(無)	15	02

山川均	資本主義のからくり……(農)	30	02
堺眞柄	婦人運動史…(近刊)……(無)	10	02

（参考書）

細井和喜藏	女工哀史……(改)	40	08
ゴルキー	母……(同)	1·10	12
堺利彦	ロシア革命十一月七日……(無)	20	02
同	パリ・コンミユンの話……(同)	20	02
タルプスカヤ	レニンの思出……(農)	60	06

（第三期）

山川均	無產者講話……(無)	20	02
マルクス	利潤の出處……(無)	20	02
田所・山川編	プロレタリア經濟學……(厳)	70	06
堺利彦	社會主義學說大要……(無)	30	02
綾本貞代	勞働婦人問題……(無)	15	02
山川菊榮	無產階級の婦人運動……(同)	10	02
堺利彦	辯證法的唯物論の話……(無)	10	02
山川均	辯證法的唯物論とは何か……(無)	10	02
ラツパポート著 山川菊榮譯	社會進化と婦人の地位……(改)	20	04
ベーベル	婦人論……(同)	60	12
スターリン著 近藤榮藏譯	プロレタリア政治學……(無)	60	06

（参考書）

コロンタイ著 山川菊榮譯	婦人と家族制度……(農)	20	02
守田有秋	自由戀愛と社會主義……(文化)	1.00	02
堺眞柄	ロザの手紙……(無)	10	02
シンクレア著 堺利彦譯	スパイ……(共)	1.00	10
ヒヤトニツキー	革命の陣頭に立ちて……(同)	1.00	10
シヤバロフ	マルクス主義への道……(同)	1.00	10
今野賢三	プロレタリア戀愛觀……(世界)	80	06
近藤榮藏	プロレタリア雄辯學……(平凡)	80	08
同	プロレタリア演說集……(同)	80	03

小商人は何から讀むべきか

（第一期）

小伏漬太郎	今の世の中……(無)	10	02
堺利彦	一休の自來也……(同)	10	02
同	いかけ松……(同)	10	02
河野密	人一生の經濟學……(勞研)	10	10
堺利彦	社會主義大意……(無)	10	02

（参考書）

山川均	タンクの水……(上西)	10	02
阪本勝	一錢銅貨物語……(大勞)	10	02
辻井民之助	無產青年に與ふ……(勞研)	10	02

村島帰三	勞働問題早わかり……(大勞)	10	02
ファンの會	無產政黨早わかり……(ファン)	20	02

（第　二　期）

山川　均	無產者講話……(無)	50	04
同	資本主義のからくり……(農勞)	30	04
マルクス著 堺利彦譯	勞働と資本……(無)	15	02
同	利潤の出處……(同)	20	02
堺　利彦	貧富戰と男女戰……(中央)	1.20	12

（參　考　書）

山川菊榮	メーデー……(上西)	10	02
堺　利彦	ロシア革命十一月七日……(無)	20	02
堺　利彦	パリ・コンミユンの話……(無)	20	02
ミヤレン	赤い少年（童話）……(同)	50	04
原　哲夫	鐘紡罪惡史……(戰)	30	04
林　房雄	密　偵……(日評)	30	04
葉山嘉樹	誰が殺したか……(同)	30	04
ソ　ラ	ジエルミナル（木の芽立ち）…(無)	30	04
堺　利彦	囚人天業……(改)	50	04

（第　三　期）

近藤榮藏	失業と無產階級……(無)	15	02

ヘインドマン	社會進化の過程……(無)	15	02
堺　利彦	社會主義學說大要……(同)	30	02
同	辯證法的唯物論の話……(同)	10	02
山川　均	辯證法的唯物論とは何か……(同)	10	02
赤松克麿	日本勞働運動發達史……(文化)	1.00	10
山川　均	インタナショナル史……(日評)	90	10
山川・田所編	プロレタリア經濟學……(巖)	70	08
スターリン著 近藤榮藏譯	プロレタリア政治學……(無)	60	06

（參　考　書）

レンクレア著 堺利彦譯	スパイ……(共)	1.00	12
秋田雨雀	若きソビエートロシア……(叢)	1.50	12
ウイリアムス著 前田河廣一郎譯	ソビエート風土記……(中央)	1.00	10
フアブル著 大杉榮譯	自然科學の話……(ア)	1.50	12
岩藤雪夫	貿銀奴隷宣言……(南)	1.50	12
小林多喜二	蟹工船……(戰)	50	04
近藤榮藏	ロシア社會運動史……(解)	1.00	08
パンネコツク著 堺利彦譯	社會主義と進化論……(無)	20	02

智識階級は何から讀べきか

（第　一　期）

クロポトキン著 大杉栄譯	青年に訴ふ	(勞運)	10	20
堺利彦	社會主義大意	(無)	10	02
山川均	資本主義のからくり	(農勞)	30	02
マルクス著 堺利彦譯	勞働と資本	(無)	15	02
同	利潤の出處	(同)	20	02
山川均	無產者講話	(同)	50	06
堺利彦	貧富戰と男女戰	(中央)	1.20	12
同	社會主義學說大要	(無)	30	02

(參考書)

無產社編	プロレタリア歌曲集	(無)	30	02
荒畑寒村	停電	(同)	10	02
堺利彦	ロシヤ革命十一月七日	(同)	20	02
同	パリ・コンミユンの話	(同)	20	02
林房雄	密偵	(日評)	30	04
辻井民之助	無產青年に與ふ	(勞研)	10	02
ツルゲネフ	父と子	(新潮)	1.00	12
ユーゴー	レ・ミゼラブル(全三冊)	(同)各	1.00	12
ゴリキイ	どん底	(同)	1.00	12

(第二期)

ハインドマン著 堺利彦譯	社會進化の過程	(無)	15	02

堺利彦	辯證法的唯物論の話	(無)	10	02
山川均	辯證法的唯物論とは何か	(同)	10	02
ブハリン	プロレタリア經濟學	(叢)	70	06
近藤榮藏	失業と無產階級	(無)	15	02
パンネコツク著 堺利彦	社會主義と進化論	(同)	20	02
河上肇	資本論入門(第一冊ヨリ五冊)	(弘)	90	08
同	同 (第七冊)	(同)	35	04
同	同 (第八冊)	(同)	25	04
レーニン	國家について	(永)	30	02

(參考書)

クロポトキン著 大杉榮譯	革命家の思出	(赤)	2.80	18
ヒヤトニツキー	革命の陣頭に起ちて	(共)	1.00	10
レヤポワロフ	マルクス主義への道	(同)	1.20	12
ゴルキイ	母	(改)	1.00	12
クルプスカヤ	レーニンの思出	(叢)	60	06
シンクレア	スパイ	(共)	1.00	12
岩藤雪夫	賃銀奴隷宣言	(南)	1.50	10
細井和喜藏	女工哀史	(改)	40	08
ファブル著 大杉榮	科學知識全集(全十二卷)	(ア)各	1.5)	12

(第三期)

河上肇	階級闘爭の必然性……（共）	5）	02
カウツキー著 高畠孝之譯	資本論解說……（改）	1.00	10
ハインドマン著 山川菊榮譯	階級闘爭の史的發展……（白）	1.00	18
パホロウイツチ著 上田茂樹譯	帝國主義の經濟的基礎……（泰文）	1.00	10
田所輝明	歐州社會運動史……（白）	2.00	12
佐野學	マルクス主義と無神論……（農）	50	06
レーニン著 堺利彥譯	左翼小兒病……（無）	30	02
ブハリン	唯物史觀……（白）	1.00	18
スターリン著 近藤榮藏譯	プロレタリア政治學……（無）	60	03

（參考書）

佐野學	プロレタリア日本史……（南宋）	50	04
上田茂樹	プロレタリア世界史……（同）	50	04
服部之總	明治維新史……（大鳳）	1.20	10
山川均	インタナショナル……（日評）	90	10
プロイド	帝國主義と民族問題……（共）	50	04
青山・水木	ブル經濟ABC……（文戰）	50	04
ソコロフ	ロシア革命の發展過程……（共）	1.00	12
田所輝明	政治運動教程……（巖）	1.50	12
ニアリング	勞農ロシアの教育制度……（農）	90	06
スターリン	人間レニン……（希）	80	04

經濟學

河上肇	經濟學大綱……（改）	1.00	20
同	マルクス主義經濟學の基礎理論……（同）	1.00	20
カウツキー著 高畠素之譯	資本論解說……（改）	1.00	10
ボグダノフ著 林房雄譯	經濟科學概論……（白）	1.00	10
レーニン著 河野重弘譯	經濟學教程……（共）	1.00	10
ルクセンブルク	經濟學入門……（農）	1.00	10
山川・石濱・河野	唯物史觀經濟史（經濟學全集32卷）……（改）	1.00	20
猪俣津南雄	金融資本論……（改）	40	08
マルクス	經濟學批判（社會思想全集6）…（平凡）	1.00	12
河西・猪俣・向坂	マルクス經濟學說の發展（全二册）……（改）	各1.00	20
マルクス著 高畠素之譯	資本論（全五册）……（同）	各1.00	12
マルクス	剩餘價値學說史（全五册）……（同）	各1.00	20
ブハリン	世界經濟と帝國主義……（希）	1.20	08
ブハリン	ブルジョア經濟學批判……（白）	1.30	12
ブハリン	轉形期の經濟學……（同人）	80	06
レーニン	資本主義最近の段階……（農）	50	04
ヴァルガ	安定後に於ける資本主義沒落（同）	70	06
同	世界經濟年報（1）……（同）	90	10

同	同	(2.3.4)……	(同)	1.00	10
同	同	(5.6) ……	(同)	80	10

（参　考　書）

カウツキー著 笠信太郎譯	金融資本と恐慌……	(叢)	40	02
カウツキー著 市川正一譯	資本主義と物價問題……	(春文)	1.80	12
ラファルグ著 荒畑寒村譯	財產進化論……	(改)	20	04
門野重弘	マルクス經濟學の根本問題	(共)	80	08
リヤザノフ著 栗原佑譯	勞賃（マルクス遺稿）……	(叢)	80	02
エンゲルス著 門木平譯	强力と經濟……	(上野)	80	06
アーコーン著 村田正	プロレタリア經濟學の方法…	(叢)	70	06
エンゲルス著 遠田吉五郎	マルクス主義經濟學大綱……	(共)	90	06
ホブソン	近代資本主義發達史論	(弘)	3.00	27
ヒルファデング 林要	金融資本論……	(改)	70	14
鈴木武雄	世界經濟と金解禁……	(鏡)	1.20	10
大原社會問題 研究所編	資本論首章及附錄（獨和對照）	(弘)	1.80	18
パリット	ソビエツトロシア經濟 及經濟政策……	(共)	2.00	10
白柳秀湖	親分子分（英雄篇）……	(千倉)	1.50	14
同	同　（俠客篇）……	(同)	1.5〻	14
同	財界太平記（全二册）……	(同)	各2.00	14
レヴインスサー 貴島克巳	財產起源論……	(改)	10	02

マルクス其他 四方田敏郎	マルクス主義財政租稅論……	(叢)	80	06
河野重弘	經濟學とは何ぞや……	(共)	90	10

現代日本の研究

高橋龜吉	日本資本主義發展史……	(日評)	1.30	10
野呂榮太郎	日本資本主義發達史……	(鏡)	2.50	20
狩谷善一	日本資本主義……	(日評)	2.50	20
猪俣津南雄	現代日本研究……	(改)	3.00	26
本庄榮次郎	日本社會經濟史……	(改)	1.00	20
高橋龜吉	日本財閥の解剖……	(中央)	2.50	18
猪谷善一	明治維新經濟史……	(改)	2.50	26
大毎 エコノミスト	日本金融資本戰……	(日評)	2.00	18

（参　考　書）

高橋龜吉	資本主義類殷の諸相……	(千)	2.20	20
大原社會問題 研究所	日本勞働年鑑（昭和四年）……	(同)	3.00	20
横溝光暉	日本社會主義運働史講話……	(同)	1.65	12
白柳秀湖	日本經濟革命史……	(千倉)	1.80	12
高橋龜吉	日本經濟の解剖……	(東洋)	2.70	12
同	日本の金融……	(同)	2.30	12
同	日本農民經濟の研究……	(先進)	1.50	12

唯物史観

河上肇	唯物史観略解……(大労)	10	02
堺利彦	社會主義學說大要……(無)	30	04
ハインドマン	社會進化の過程……(無)	15	02
メーリング著 岡田宗司	唯物史観……(叢)	70	06
カウツキー 由利英一	倫理と唯物史観……(共)	80	08
アハリン	史的唯物論(唯物史観)……(白)	1.00	12
エンゲルス	家族，私有財產及國家の起源(岩波)	40	04
プレハノフ	マルクス主義の根本問題……(共)	60	06
デボーリン	唯物史観……(白)	60	06
ベーア	社會主義通史……(同)	3.80	28
マルクス	共產黨宣言……(無)	60	02

(参考書)

ラファルグ 荒畑寒村	財產進化論……(改)	20	04
河上肇	階級闘爭の必然性……(共)	05	02
レザインスキー	財產起原論……(改)	20	02
クノウ	婚姻及家族の原史に就て……(弘)	1.00	12
カウツキー	基督教の起原(上下二册)……(啓)	各1 50	14
ハインドマン 山川菊榮	階級闘爭の史的發展……(白)	1.00	12

フラバポート 山川菊榮	社會進化と婦人の地位……(改)	40	08
プロ科學研究所	唯物史観序說……(機)	1.00	12
住谷悦治	經濟學說の歷史性階級性……(弘)	2.20	28

帝國主義

パボロウイツチ 上田茂樹	帝國主義の經濟的基礎……(泰文)	1.00	10
猪俣津南雄	金融資本論……(改)	40	06
プレアス	近代帝國主義論……(同人)	80	06
レーニン著 長谷部文雄	帝國主義……(岩)	40	06
猪俣津南雄	帝國主義研究……(改)	1.00	10
楯和夫	帝國主義の現段階……(機)	1.00	10
フィッシャー	石油帝國主義……(改)	1.50	10
ラウンスキー	帝國主義十字軍……(希)	1 30	10
アハリン	世界經濟と帝國主義……(希)	1.20	10

(参考書)

ウノピエフ	戰爭問題の史的考察……(共)	1.20	10
レーニン	帝國主義論體系……(希)	1.50	10
アハリン	帝國主義と資本の蓄積……(同人)	1.50	12
レーニン	資本主義最近の段階としての帝國主義……(叢)	50	06

カウツキー	金融資本と恐慌……（同）	40	04
ベッバー	帝國主義イギリスの沒落……（同人）	20	02
パウエル	資本の蓄積と帝國主義……（叢）	30	04

政　治　學

青年コミンテルン 冬木・谷田	無產者政治教程(第一部)……（叢）	50	04
同	同　（第二部）……（同）	50	04
スターリン 近藤榮藏	プロレクリア政治學……（無）	60	04
レーニン著 堺利彦譯	左翼小兒病……（無）	30	04
マルクス エンゲルス	共產黨宣言……（無）	60	02
レーニン	國家について……（永）	30	04
レーニン	國家と革命……（左）	1.00	10
同	アジテーションとプロパガンダ……（共）	1.20	12
レーニン	何を爲すべきか……（弘）	80	08
カウツキー著 三輪壽壯譯	社會民主黨綱領解說……（弘）	3.50	18
レーニン著 山川菊榮譯	背教者カウツキー……（白）	80	08
レーニン	組織論……（改）	30	06
同	議會闘爭の戰術……（共）	1.00	10

（參　考　書）

ラッサール 小泉信三	勞働者綱領……（岩）	20	02

山川　均	インタナショナルの史……（日評）	90	12
藤井　悌	各國勞働黨，社會黨，共產黨（同）	1.20	12
ゲルザエンチエフ	ロシア共產黨小史……（白）	1.00	10
近藤榮藏編譯	ロシア共產黨內訌錄……（改）	1.50	12
ヴァルガ	社會民主主義諸政黨……（希）	1.60	11

田所輝明	政治運動教程……（叢）	1.50	12
猪俣津南雄	現代日本研究……（改）	2.80	20
經濟學全集	日本經濟の研究……（改）	1.00	16
同	日本社會經濟史……（改）	1.00	16
高橋龜吉	日本財閥の解剖……（中央）	2.50	18
山川　均	單一無產政黨論……（文藝）	50	04

（參　考　書）

赤松克麿	日本勞働運動發達史……（文化）	1.00	10
横溝光暉	日本社會運動史講話……	1.65	10
高橋龜吉	日本資本主義發達史……（日評）	1.30	12
木村靖二	日本農民爭闘史……（白）	1.50	12

哲　學

堺　利彦	唯物辯證法の話……（無）	10	02

山川均	辯證法的唯物論とは何か……(無)	10	02
ディツゲン	辯證法的唯物觀……(改)	20	04
同	哲學の實果……(同)	10	02
同	マルキシズム認識論……(同)	10	02
エンゲルス 堺利彦	社會主義の發展……(同)	10	02
プレハノフ	マルクス主義の根本問題……(共)	60	04
デボーリン 川内唯彦 永田廣志	辯證法的唯物論の哲學……(叢)	1.00	12
プレハノフ	近代唯物論史……(同人)	1.40	10
エンゲルス 河野密	反デューリング論……(弘)	1.00	08
レーニン 山川均	唯物論と經驗批判論……(平凡)	1.00	12
マルクス 近藤榮藏	哲學の貧困……(平凡)	1.00	12
プレハノフ 川内唯彦	史的一元論……(鍬)	2.00	12

(參考書)

デボーリン 河野重弘	哲學とマルクス主義……(上)	1.50	12
ランゲ 川合貞一	唯物論史……(丸善)	5.30	28
ルツポール	レーニンと哲學……(白)	1.00	12
タルハイマー 廣島定吉	辯證法的唯物論入門……(白)	1.00	12
デボーリン 笹川正孝	辯證法と自然科學……(白)	各1.50	12
デボーリン 川内唯彦	辯證法(ヘーゲル論理批判)…(鍬塔)	1.30	12
デボーリン 佐野學	スピノザと辯證法的唯物論…(共)	80	08

デボーリン 永田廣志	唯物論史……(白)	2.50	27
ヘーゲル 河野正道	ヘーゲル歷史哲學概論……(同)	2.50	27
プレハノフ 川内唯彦	ヘーゲル批判……(叢)	30	04
レーニン	ヘーゲル(論理の科學)大綱…(同)	50	04
ヨードル 北村圭之助	唯物論者フオイエルバツハ…(同)	70	06
デボーリン 河上肇	レーニンの辯證法……(弘)	50	06
デボーリン	カントに於ける辯證法……(同)	1.00	08
エンゲルス	フオイエルバツハ論……(岩波)	20	02
エリオツト 山川均	近代科學と唯物論……(白)	1.00	12
ボグタノフ 林房雄	社會意識學概論……(同)	1.00	12
宮本,高技編	岩波哲學小辭典……(岩波)	6.00	35

農村問題

仁科雄一	農民の今日と明日……(勞研)	20	02
レーニン 直井武夫	勞働者と農民……(共)	50	04
稻村隆一	日本に於ける農村問題……(叢)	80	06
大西俊夫	農民運動の道……(希)	80	06
ミリユーテイン	農業問題……(同)	40	04
マルチノフ	マルクス主義と農民問題……(同)	1.00	08
ヴアルガ	農村問題の理論的基礎……(同)	70	04

レーニン	農業問題と『マルクス批判家』(南盟)	80	08
社會經濟研究所編	農業政策綱領……(春秋)	1 20	12

(參　考　書)

レーニン	ロシア農村問題……(希)	90	04
同	民主黨の農村問題……(希)	70	01
マルチノフ	レーニンと農村問題……(同)	90	06
和田敬三	自作農制定と農業問題……(同)	90	06
エンゲルス	ドイツ農民戰爭……(希)	1.00	08
産調編	支那に於ける農民運動……(叢)	80	06
木村靖二	日本農民爭闘史……(白)	1.50	12
ボボフ	マルクスエンゲルスの農民に關する見解…(希)	40	04
稻村隆一	農村は何處に行く……(先)	1.30	12
田村栄太郎	明治初年の政治的農民一揆…(文戰)	50	04
布施辰治	小作爭議法廷教科書……(希)	1.20	10

婦人問題

堺利彦	婦人問題の本質……(無)	10	02
山川菊栄	無産階級の婦人運動……(同)	10	02
同	婦人と無産政黨……(同)	10	02
綫本貞代	勞働婦人問題……(同)	15	02

山川菊栄	婦人問題と婦人運動……(文化)	1.00	08
ラツパポート 山川菊栄	社會進化と婦人の地位……(改)	20	04
ベーベル 山川菊栄	婦人論……(同)	60	12
コロンタイ 山川菊栄	婦人と家族制度……(叢)	20	04
ミユトラツセル 冬木圭	資本攻勢と勞働婦人……(共)	80	06

(參　考　書)

ロシア問題調研究所	ソヴエト法と婦人の權利……(婦選)	50	04
山川均 山川菊栄	無産者運動と婦人の問題……(白)	1.00	10
コロンタイ 林房雄	戀愛と新道徳……(世界)	1.20	06
コロンタイ 松尾四郎	赤い戀……(同)	1,00	10
デミトウイツチ 太田信夫	亂婚裁判……(同)	50	08
ゲリゴリエフ 廣岡光治	ソヴエート女教師日記……(同)	1.50	12
堺眞柄編	ロザの手紙……(無)	10	02
井口孝親譯	ロザ・ルクセンブルクの手紙(同人)	1.00	06
細井和喜藏	女工哀史……(改)	40	08
グリマン 廣尾猛	革命と性生活……(希)	1.30	10
コロンタイ 林房雄	三代の戀……(世界)	40	04
文明協會編	婦選問題と婦人の要求……(文明協會)	70	06
山本宣治	性教育……(ロゴス)	1.80	18
カルザアトン 内山賢次	結婚の破産……(春秋)	1.20	12

青年運動

高橋貞樹	無産青年運動	(労研)	15	02
コンミンテルン	青年運動教程	(白)	70	08
レーニン 貴司譲	青年問題	(マ)	35	04
サロヂイチ	青年運動の闘争戦術	(マ)	30	02

(参考書)

クロポトキン 大杉栄	青年に訴ふ	(労)	10	02
辻井民之助	無産青年に與ふ	(労研)	10	02
クロポトキン 大杉栄	革命家の思出	(春陽)	2.80	18
秦戸辰夫	大學の顛落	(同人)	30	02
クルプスカヤ	レーニンの思出	(叢)	60	06
シャパロフ	マルクス主義への道	(共)	1.00	12

勞働運動

レンツ ニンデルン	無産者初歩教程(組合教程)	(共)	1.00	10
レーニン	勞働組合論	(共)	60	04
レーニン	勞働者と農民	(共)	50	04
山川均	勞働組合と無産政黨	(無)	20	02
同	勞働組合運動の新方向轉換	(同)	50	04

ロゾフスキー 堺利彦	國際勞働組合運動	(白)	1.60	10
エンゲルス	英國勞働階級の狀態	(改)	1.00	18
ルクセンブルグ	大衆罷業黨及組合	(白)	90	06
ネストリープケ	獨逸勞働組合運動史	(協)	3.00	20
コンミンタン	工場細胞を基礎として	(共)	60	06
高橋貞樹	工場内の組織運動	(労研)	20	02
ロゾフスキー	勞働組合運動の理論と戰術	(弘)	1.00	10

(参考書)

日本社會問題研究所	勞働爭議野田決戰記	(日)	1.60	12
レーニン	ストライキについて	(希)	40	04
ペーペル	政治的大衆罷工に就いて	(白)	50	04
スターリン アハーリン	勞働者に答ふ	(希)	40	04
小泉保太郎	左翼勞働組合運動	(マ)	1.00	10
赤松克麿	日本勞働組合發達史	(文化)	1.00	10
ウエッブ	英國勞働組合運動史	(叢)	3.80	20
奈良正路	勞働者のための勞働法	(緑)	70	08
田中康夫	健康保險法批判	(緑)	70	08

宗教問題

佐野學	マルクス主義と無神論	(叢)	50	04

レーニン	宗教について……（希）	40	04
高津正道	無産階級と宗教……（大鳳）	90	10
ラファルグ	正義、信仰、宗教……（先進）	80	10
エンゲルス 堺利彦譯	社會主義の發展……（白）	70	06
カウツキー	キリスト教の發生と古代無産階級……（社會評論社）	2.50	18
レンクレア	宗教信ずべきか……（ア）		

（參　考　書）

フオイエルバツハ	基督教の本質……（共）	1.30	12
同	基督教の本質「補遺」……（共）	80	08
佐野　學	宗教論……（希）	40	04
ヘツカア 高津正道	ロシア革命と宗教……（太平洋）	1.00	08
三浦參玄洞	左翼戰線と宗教……（大鳳）	1.30	10
幸德秋水	キリスト抹殺論……（丙午）	1.30	10
カウツキイ	倫理と唯物史觀……（共）	80	08

教　育

セダボール	プロレツトカルト……（平凡）	1.00	10
青年コンミンタン	無産者政治教程（第四部）……（叢）（研究會の組織方法）	30	02
宇津木等	レーニン主義教育の任務と方法…	60	06

近藤榮藏	プロレクリア雄辯學……（平凡）	80	10
志垣寬	勞農ロシア新教育行……（平凡）	3.80	27
山下德治	新興ロシアの教育……（叢）	2.50	18
ニアリング 松山止才	勞農ロシアの教育制度……（叢）	90	08

（參　考　書）

オグニヨフ 杉本良吉	共產大學生の日記……（叢）	1.00	08
森戸辰男	大學の顚落……（同人）	80	08
同	闘爭手段としての學校教育…（同）	80	02
グミリヨフスキー 黒田辰男	ソビエツト大學生の私生活（世界）	1.60	10
協調會編	本邦勞働學校概況……（協調會）	50	14
山本宣治	性教育……（ロゴス）	1.80	18

天文・地文

堺　利彦	天文・地文……50			04
井上四郎	天文小話……（科學智）	2.00		18
フアブル 安成四郎	天體の驚異……（ア）	1.50		12
フアブル	地球の解剖……（ア）	1.50		12
米村未喜	航海の話……（科學智）	2.50		27

物理化學

ファブル 大杉栄	自然科學の話……（ア）	1.50	12
同	科學の不思議……（ア）	1.50	12
ファブル	日常の理化……（ア）	1.50	12
橋本竹治	常識化學……（科學智識）	3.50	27
ファブル	農業化學の話……（ア）	1.50	12
科學智識普及會編	圖解化學工業……（科學智）	5.00	27

（参考書）

アルヘルオト 松山止均 エリオフ 山川	フォードかマルクスか……（希）	90	08
	近代科學と唯物論……（白）	1.00	12

生理

安田徳太郎	プロレタリア生理學……（南宋）	50	06
山本宣治	性と社會……（ロゴス）	1.80	18
同	性教育……（ロゴス）	1.80	18
同	現代の兩性問題……（ロゴス）	1.50	18
ファブル 大木篤夫	本能の秘密……（ア）	1.50	12
山本宣治	產兒調節論……（ロゴ）	1.50	18
暉峻義等	產兒調節論……（春秋）	50	04

生物學

山本宣治	プロレタリア生物學……（南宋）	50	04

山本宣治	無產者生物學……（ロゴ）	1.50	12
ファブル	自然科學の話……（ア）	1.50	12
ダーウィン	人間の由來……（ア）	3.00	20
クロポトキン 大杉栄	相互扶助論……（春陽）	1.80	12
ダーウィン 大杉栄	種の起原……（新潮）	3.00	16
ニコライ 山本宣治	戰爭の生物學……（ロゴ）	2.00	18
パンネコツク 堺利彦	社會主義と進化論……（無）	20	02
ルトルノー 大杉栄	男女關係の進化……（春陽）	2.00	18

（参考書）

石井重美	人類及地球の運命……（ア）	1.80	08
同	宇宙及人類の創成……（ア）	2.80	12
ファブル	昆虫記……（叢）各	1.00	10
ルグロ 推名其二	ファブルの一生……（同）	1.00	10

日本歷史

佐野學	プロレタリア日本史……（南宋）	.50	04
服部之總	明治維新史……（大鳳）	1.50	12
白柳秀湖	日本經濟革命史……（千倉）	1.80	12
竹越與三郎	日本經濟史（改訂普及版）全六冊（平凡）	35.00	各27
鳥居龍藏	人類學上より見たる上代文化（叢）	1.50	18

（参　考　書）

羽仁五郎	轉形期の歷史學	(岩)	1.80	12
田口卯吉	日本開化小史	(改)	20	04
年史刊行會	昭和三年史	(年史)	2.80	24
年史刊行會	昭和四年史	(年史)	2.80	24
吉田英雄	日本社會經濟編年史	(改)	8.00	27
猪谷善一	明治維新經濟史	(改)	2.50	26
本庄榮次郎	日本社會史	(同)	2.50	24
赤松克麿	日本勞働運動發達史	(文化)	1.00	10
櫛橋光暉	日本社會主義運動史講話		1.65	10

世界歷史

上田貢樹	プロレタリア世界史	(南宋)	50	04
田所輝明	歐洲社會運動史	(白揚)	2.00	10
山川均	インタナショナルの歷史	(評論)	90	10
ロゾフスキー 堺利彥	國際勞働組合運動	(白揚)	1.60	10
クロポトキン 岩佐作太郎	フランス革命（全二册）	(春陽)	各 1.00	10
ロートレユタイン 鹿島定吉	イギリス勞働運動史論	(叢)	1.00	10
ウエルス 北川三郎	世界文化史大系	(大觀)	1.00	12
パウチエフ 村田重	コンミンタン發生と發展	(希)	70	8

ポクロフスキー 外村史郎	ロシア社會史	(叢)	1.00	03
ウエッブ 山川・荒畑	勞働組合運動史	(叢)	3.60	16
ウエスターマーク 吉岡永美	人類結婚史	(啓明)	2.50	21
ヴアン・ルーン 神近市子	世界人類物語	(春秋)	1.00	12
三省堂編	最新世界年表	(三)	1.50	18

法　律

產調編	暴壓法と如何に闘ふべきか	(勞研)	25	04
前川・伏原	市町村とは何か	(同)	20	02
奈良正路	無產者法律必携	(同人)	1.00	10
泉敬七	立禁差押と如何に闘ふべきか	(勞研)	25	04
布施辰治	小作爭議法廷戰術	(希)	1.20	08
奈良正路	小作法案の嚴正批判	(叢)	90	06
エンゲルス	住宅問題	(同人)	80	06
勞研編	新工場法解說	(勞研)	30	04
奈良正路	勞働者の爲の勞働法	(岩)	70	06
田中康夫	健康保險法批判	(同)	70	06
佐次雄	借家問題の理論と實際	(雷)	30	02
武藤運次郎	借家人の爲の法律と戰術	(希)	80	06
勞働農民黨編	無產者の爲の普選法詳解	(同人)	20	02

同	無產者の爲の普選法罰則法詳解	(同)	30	02
勞働法規研究	勞働關係法規	(三田)	1.50	12
奈良正路	判例を中心とした普通法	(評論)	4.00	34

(參考書)

三省堂編	模範六法全書	(三省)	1.90	16
アロシューテン 佐田弘雄	サヴイエツト憲法	(上野)	90	10
廣岡光治	ロシヤ刑法	(巖)	70	08
同	ロシヤ民法	(同)	1.30	12
大毎編輯部	ソヴエート政府の民族政策法 (全三册)	(大毎)各	3.80	24
婦人問題研編	ソヴエート法と婦人の權利	(婦選)	50	06

民族問題

プロイド 高橋實	民族の起原及其發達	(共)	20	02
スターリン 松本篤一	レーニン主義と民族問題	(希)	50	04
レーニン 青野季吉	民族問題	(白)	95	08
細川嘉六	植民政策批判	(叢)	35	04
パルムダット 石澤新二	マルクス主義者の見た印度の諸問題	(同)	70	06
クノウ 森谷克巳	マルクスの民族社會並に國家觀	(同人)	60	06
マルクス 久留間細川	ユダヤ人問題を論ず	(岩波)	20	02

人口問題

河上肇	人口問題批判	(叢)	30	02
高野岩三郎	本邦人口問題の現在將來	(同人)	1.00	10
同	本邦人口問題	(同)	0.05	02
ベーベル	婦人論(下卷, 人口問題と社會主義)	(岩波)	40	04

(參考書)

ロバートマルサス 高野・大内	人口の原理	(同人)	2.50	15

消費組合

ウエツプ 山村喬	消費組合運動	(同人)	4.80	20
同	消費組合發達史論	(同)	2.00	12
カウツキー 村山重忠	消費組合と勞働運動	(叢)	30	04
久留間鮫造 丸岡重堯	本邦消費組合論	(同人)	2.00	12
後藤貞治	本邦消費組合の現況	(同)	50	02

世界の狀勢

田所輝明	歐洲社會運動	(白)	2.00	21
近藤榮藏	ロシア社會運動史	(解放)	1.00	08
ブハリン 稻村順三	勞農ロシアの十年間	(叢)	20	02
社會思想社編	各國無產政黨發達史	(同人)	1.00	12
山川均	インターナショナル史	(評論)	90	10

バルガ	世界經濟年報（既刊八册）……	（叢）	7.00	35
レーニン 岡田宗司	資本主義最近の段階としての帝國主義…	（叢）	70	06
産勞編	鬪爭と建設の勞農ロシア……	（希）	70	06
スターリン 蔵森唯士	サヴエート國家の現勢……	（戰）	50	04
アキラ 黒川健三	伊太利に於けるフアシズム…	（弘）	70	18
島海篤助	ソブエツトロシアの基本構成	（同人）	80	04

未來社會

プハリン 河上肇	勞農ロシアの社會主義的建設	（弘）	1.00	18
プハリン	轉形期の經濟學……	（同人）	80	08
ボクリン	轉形期經濟學の批判……	（叢）	60	06
社會思想編	勞農聯邦研究……	（春秋）	2.00	14
カウツキー	社會民主黨綱領……	（弘文）	3.50	18
ベーベル 山川菊榮	婦人論（未來編）……	（改）	60	12

（參考書）

ベラミー 堺利彦	社會主義の世になつたら……	（文化）	20	02
カウツキー	トマス，モアと其スピア……	（啓明）	2.50	12
ボグダノフ 大宅壯一	赤い星……	（新潮）	1.30	12
松谷與次郎	百年後の日本……	（光學堂）	1.50	12

プロレタリア小說

ゴルキー	母……	（改）	1.00	12
中西伊之助	或る農夫の家……	（共）	1.50	12
ゴルキー 松崎啓次	裏切者……	（共）	1.00	12
平林たい子	毆る……	（改）	1.50	12
岩藤雪夫	鐵……	（同）	1.50	12
シンレクア 早坂二郎	眞鍮の貞操切符……	（新潮）	1.90	12
德永直	太陽のない街……	（戰）	1.00	08
コリキー	三人……	（共）	1.00	03
ゴルキー	アルタモノーフ……	（改）	1.00	12
村山知義	暴力團記……	（評論）	30	04
林房雄	密偵……	（同）	30	04
金子洋文	赤い湖……	（同）	30	04
岩藤雪夫	賃銀奴隷宣言……	（南蠻）	1.50	12
片岡鐵兵	太刀打ち……	（評論）	30	04
岩藤雪夫	血……	（同）	30	04
葉山嘉樹	誰が殺したか……	（同）	30	04
前田河廣一郎	セムガ……	（同）	30	04
藤森成吉	蜂起……	（同）	30	04

小林多喜三	不在地主	(評論)	30	04
林房雄	都會双曲線	(先進)	1.50	12
村山知義	最初のヨーロッパの旗	(世界動)	1.60	12
群司次郎正	ミス・ニツポン	(同)	1.60	12
シンクレア 高津正道	石油(オイル)	(平)	1.50	12
藤森成吉	同志	(南蠻)	80	80
廣尾猛	メスメンド	(同)	1.00	10
杉本良吉譯	勞農ロシヤ戲曲集	(マ)	1.00	10
立野信文	軍隊病	(戰)	70	04
平林たい子	敷設列車	(評)	30	04
黒島傳治	氷河	(評)	30	04
カトレーネフ 蒹森唯士	赤旗の下に	(マ)	70	06
金子洋文	天井裏の善公	(文戰)	50	04
橋本英吉	市街戰	(戰)	70	04
セラフイモウイフチ 藏原惟人	鐵の流れ	(叢)	80	08
イワノフ 黒田辰男	裝甲列車	(マ)	1.00	10
武田麟太郎	暴力	(天人)	30	04
橋本英吉	炭坑	(同)	30	04
岩藤雪夫	工場勞働者	(同)	30	04
葉山嘉樹	仁丹を追つかける	(叢)	30	04

藤森成吉	何が彼女をそうさせたか	(改)	50	04
フルマーノフ 小宮山明敏	叛亂	(マ)	30	04
德永直	小資本家	(叢)	30	04
貴司山治	ゴー・ストップ	(中公)	1.00	10
シンクレア 前田河廣一郎	資本	(評論)	1.50	10
黒村欣三	兵亂	(叢)	30	04
平林たい子	石鹸工場の同志	(叢)	30	04
金子洋文	部落と金解禁	(同)	30	04
落合三郎	慶安太平記後日譚	(同)	30	04
大原俊雄	吼えろ支那	(世界動)	1.00	10
原哲夫	鐘紡罪惡史	(戰)	30	04
細田民樹	黄色い窓	(先進)	1.70	12
高田保	宣傳	(叢)	39	04
黒島傳治	秋の洪水	(同)	30	04
中本たか子	恐慌	(同)	30	04
前田河廣一郎	拷へられた男	(同)	30	04
平林たい子	施療室にて	(文戰)	1.00	10
シンクレア 堺利彦	スパイ	(共)	1.00	10
井東憲	赤い魔窟と血の旗	(世界動)	1.60	12
フウレニエフ 長野彙一郎	四十一人目	(南蠻)	70	04

江馬　修	阿片戰爭	(戰)	70	04
小林多喜三	蟹工船	(戰)	50	06
山田清三郎	五月祭前後	(同)	70	06
藤森成吉	光と闇	(同)	70	06
リベヂンスキー 黒田辰男	コムミサール	(マ)	1.60	10
セイフリーナ 井田孝平	強い女	(協)	70	06
ルマルク 奏　豊吉	西部戰線異狀なし	(中公)	1.50	12
窪川いね	キヤラメル工場から	(戰)	70	06
ジヤツク・ロンドン 堺　利彦	野性の呼聲	(叢)	30	06
同	ホワイト・フアング	(改)	30	06
エリイヂオルゼシユコ 清見陸郎	寡婦マルタ	(改)	30	06
ヒヤトニツキー 青木俊三	革命の陣頭に立ちて	(共)	1.00	10
シアパロフ 青木俊三	マルクス主義への道	(同)	1.20	12
片岡鐵兵	改作綾里村快擧錄	(戰)	50	04
中野重治	鐵の話	(同)	50	04
ヤロスラウーハーミエク 辻　恒彦	シユベイクの冒險	(衆人)	1.50	20
小島　勗	ケルンの鐘	(文戰)	50	04
落合三郎	筑波秘錄	(南蠻)	80	08
伊藤永之介	恐　慌	(文戰)	50	04
山本勝治	員章を打つ	(同)	50	04

イレーツキイ 工藤　信	鼠陷し	(金星)	30	04
イワノフ 黒田辰男	裝甲列車1469	(金星)	30	04
レフレンツ 麻生　義	法の外に	(同)	30	04
シンクレア 佐野　磧	プリンス・ハアゲン	(同)	30	04
ルナチヤルスキー 千田　辻	解放されたドンキーホーテ	(同)	30	04
シンクレア 木村生死	拜金藝術	(同)	30	04
ミルボオ 石川三四郎	惡指導者	(同)	30	04
グラトコフ 井田孝平	醉ひどれの太陽	(平凡)	30	40
リベヂンスキー 小宮山明敏	一週間	(同)	30	04
セミヨノフ 黒田辰男	飢	(同)	30	04
ゴリキイ 藏原惟人	番　人	(同)	30	04
ベツヘル 辻　恒彦	銀行家が戰場を馳驅する	(平凡)	30	04
マルチネ 佐々木孝丸	夜	(同)	30	04
トラア 黒田禮二	どつこい生きてゐる	(同)	30	04
ハルツプ 川口　浩	インターナショナル	(同)	30	04
ウイツフオゲル 辻　恒彦	誰が一番馬鹿だ	(同)	30	04
ラツエ 千葉龜雄	戰の人々	(同)	30	04
バルビユス 佐々木孝丸	クラルテ(上下)	(同)	各30	04
細田民樹	赤い曙	(春秋)	1.80	14
同	眞理の春	(中公)	1.50	12

美術，劇と映畫

杉本	勞農ロシア戲曲集……（マ）	1.00	12
マルコフ 阪本良吉	ロシア革命と演劇……（發）	1.00	08
松時啓次	プロレタリア移動劇場脚本集（共）	80	08
村山知義	プロレタリア美術のために…（アトリエ）	1.50	10
柳瀨正夢	柳瀨正夢畫集……（發）	1.50	10
柳瀨正夢編	ゲオルグ・グロツス……（鍬）	2.80	10
昇曙夢編	ソビエートロシア漫畫集……（南豐）	2.00	18
ルナチヤルスキー 吉井虹二	ロシア革命映畫……（白鳳）	1.60	12
ムウシナツク 飯島正	ソビエートロシアの映畫……（往）	1.50	12

詩　歌

渡邊順三	プロレタリア歌論集……（紅玉）	1.30	12
淺野純一	歌集「戰の唄」……（紅玉）	1.50	12
戰旗社編	日本プロレタリア詩集（一九二九年版）	40	04
ベグミコンスキイ 尾瀨敬止	サヴエート詩人選集……1.00		10
田邊一子	プロレタリア意識の下に……（同）	80	08
渡邊順三	階級戰の一隅から……（同）	80	08
無産社編	プロレタリア歌曲集……（無）	30	02

（總ての革命歌，勞働歌，を網羅す）

文　學

平林 藏原 中野 片岡 前田河 今東光	プロレタリア藝術教程（第一）（世界）	1.00	10
同	同……（第二）……（同）	1.00	10
同	同……（第三）……（同）	1.00	10
山田清三郎	日本プロレタリア文學運動史（發）	1.00	08
プレハーノフ 外村史郎	藝術論……（同）	60	06
ルナチヤルスキー 外村史郎	藝術の社會的基礎……（同）	1.60	08
メーリング 川口浩	世界文學と無產階級……（同）	90	03
プレハーノフ 外村史郎	階級社會の藝術……（同）	1.00	08
プレハノフ 外村史郎	文學論……（同）	1.00	08

（參考書）

ハウゼンシユタイン 阪本勝	藝術と唯物史觀……（同人）	1.00	08
イワコウイツチ 石川湧	史的唯物論より見たる文學…（春陽）	1.30	08
藏原惟人	藝術と無產階級……（改）	1.20	10
中野重治	藝術に關する走り書覺へ書…（改）	1.20	10
勝本清一郎	前衛の文學……（新潮）	1.80	12
山房房吉	プロレタリア文學の理論と實除（紅玉）	1.30	12
大毛壯一	文學的戰術論……（中央）	1.50	12

ガルヴアトン 木村利美	文學の社會學的批判……(白)	1.30	12
プロレタリア 科學研究所編	藝術とマルクス主義……(改)	1.00	10
フリーチエ 昇曙夢	藝術社會學……(新潮)	1.50	12
マルクス 其他	藝術とは何ぞや……(白)	70	06
平林初之輔	文學理論の諸問題……(千)	1.80	12
青野季吉	マルクス主義文學闘爭……(神谷)	1.80	12
ハウゼンシユタイン 川口浩	造型藝術社會學……(叢)	1,00	08
キンズブルグ 黒田辰男	樣式と時代……(同)	90	06
マーツア 蔵原惟人	現代歐洲の藝術……(同)	1.00	08
コーザン 黒田辰男	ソヴエートロシア文學の展望(同)	1.00	08

年鑑

大原社會問題研究所	日本勞働年鑑(昭和五年度)(同人)	3.00	18
同	日本社會主義文獻……(同)	2.00	12
年史刊行會	昭和四年史……2.80		25
日本大衆黨	日本大衆年鑑……1.00		15
大原社會問題研究所	日本社會衛生年鑑(昭和二年)(同人)	2.50	15

地理

菊川忠雄	無產者經濟地理概論……(改)	30	06

ウイリアムス 前田河廣一郎	ソヴエート風土記……(中公)	1.00	10
新光社	世界地理大系(各一册)……	2.80	26
改造社版	日本地理大系(各一册)……	2.80	26

傳記

クロポトキン 大杉栄	革命家の思出……(春陽)	2.80	18
ルクセンブルグ 井口孝親	ロザ・ルクセンブルグの手紙(同人)	1.00	16
堺眞柄	ロザの手紙……(無)	10	02
山川菊栄	リープクネヒトとロザ……(上西)	30	04
ラデツク其他	ローザ・ルクセンブルグ……(弘)	1.2•	08
カウツキー 篠田・大内	マルクス・エンゲルス評傳…(同人)	10	02
レーニン	カール・マルクス……(同人)	20	02
リープクネヒト	カール・マルクスの追憶……(刀江)	90	08
クルプスカヤ 岡林辰雄	レーニンの思ひ出……(叢)	60	06
プハーリン 蔵原惟人	理論家としてのレーニン……(白)	60	06
スターリン 爪生信夫	人間レーニン……(希)	50	06
ヤロスラウスキー 爪生信夫	ウラジミル・イリツチ・レニン(同)	1.80	10
青年コンミンタン	レーニン物語……(共)	20	04
山川・荒畑	堺利彦を語る……(秀文)	30	04
堺利彦	堺利彦傳……(改)	1.60	12

大杉栄	自叙傳……(同)	2.00	12
リャザノフ	マルクス・エンゲルス傳……(岩波)	40	4

雜・論文集

布施辰作	無産者モラトリアム論……(共)	1.30	04
山川均	事象を追ふて……(白)	1.50	10
カ井エス桂一次郎	軍事問題發達史……(イス)	70	08
幸徳秋水	痛罵譴謫文集……(解)	1.00	10
近藤栄蔵	プロレタリア雄辯學……(平凡)	80	08
同	プロレタリア演說集……(同)	80	08

辭典

勞研編	勞農辭典……(勞研)	70	06
共生閣編	プロレタリア辭典……(共)	1.00	01
田所輝明	社會運動辭典……(白)	1.50	15
同	社會科學小辭典……(白)	2.60	20
長谷川如是閑 堺利彦 高野岩三郎 麻生久 安部磯雄	社會科學大辭典……(改)	15.00	54
山田清三郎 川口浩	プロレタリア藝術辭典……(白)	1.50	12
ロシヤ研究所	ソビエツト・ロシア辭典……(希)	2.00	12
支那問題研究所	支那問學辭典……(希)	2.80	12

雜誌、新聞

月刊「勞農」(一部三十錢 三圓三十錢) 振替東京一六二一三八 東京市外中野新町三八三八 勞農社

月刊「大衆解放」(一部三十錢 三圓三十錢) 振替東京三六九四四 東京芝新櫻田町一九 解放社

月刊「インタナショナル」(一部三十錢 三圓六十錢) 東京麹町内幸町一ノ六 産業勞働調査所

月刊「産業勞働時報」 同

月刊「社會問題研究」(一冊二十錢 半年一圓廿錢 送料二錢) 東京神田駿河臺西紅梅町七 振替東京二七〇六五 同人社

「勞働者教育」 定價二十錢 東京小石川區宮下町六五 東京二五五五 勞働者教育社

「戰旗」 東京麹町區内幸町一ノ六 振替東京一〇三二六 戰旗社

「文藝戰線」(一部三十錢 三圓四十錢) 東京神田九段ビル 振替五九三八七 文藝戰線社

「プロレタリア科學」(一部四十錢 四圓六十錢) 東京中野町中野三九九 振替東京二三三五四 プロレタリア科學研究所

「法律戰線」（一部二十錢 一年二圓四十錢）東京高田町雜司ヶ谷八十五 振替東京三六四五五 生活運動社

「無產婦人」（一部三錢 年三十錢）東京市外日暮里旭町 振替東京七七二一二 無產婦人同監

「婦人運動」（一部廿錢 年貳圓二十錢）東京牛込區本村町四 振替東京六四一六〇 職業婦人社

「女人藝術」（一部四十錢 年四圓八十錢）東京牛込左內町三一 振替東京七五八二五 女人藝術社

「プロレタリア映畫」（一部三十錢 一年三圓六十錢）東京京橋銀座四ノ五 秀吉ビル

「全國大衆新聞」（一部五錢）東京芝區田村町六六荒木ビル 振替東京四六六四九

「プロレタリア演劇」（一部三十五錢 年四圓）東京京橋木挽町豊玉ビル

「勞働農民新聞」（一部五錢）東京麹町區內幸町一ノ五上村方 振替東京五九二九〇 勞働農民新聞社

「赤い星」（一部三錢 年三十錢）啓蒙新聞 東京麹町八ノ二〇 振替東京二四六二六 無產社

讀者倍加カード

本社は過去十ヶ年無産階級教化事業に微力を盡して今日に至りましたが、未だ開拓すべき餘地の餘りに大なるに驚かざるを得ません。就ては本カードを通じて未開拓の地に種蒔運動を始めたいと思ひます。讀者諸兄姉の切實なる御援助を御希ひします。

▼此カードに友人名四名御記入の上本社宛御送附下された方には「赤い星」一年分無代進呈致します。

▼*欄へはこのカードを送る方の住所姓名を御書き下さい。

住所	姓名	*

何から讀むべきか

切取線

□無産社出版書□

堺利彦	社會主義大意	10
マルクス	勞働と資本	15
パンネコツク	社會主義と進化論	20
マルクス	利潤の出處	20
堺利彦	社會主義學說大要	30
マルクス	ゴタ綱領批評	20
堺利彦	パリコンミユンの話	20
ルクセンブルグ	ロザの手紙	20
マルクス	唯物史觀要約（獨英和譯對照） 資本蓄積傾向	30
レーニン	左翼小兒病	30
堺利彦	ロシヤ革命十一月七日	20
堺利彦	唯物的辯證法の話	10
ミユウレン	赤い少年（無產者童話）	50
山川均	私は斯う考へる	20
荒畑寒村	勞働運動と理論鬪爭（絶版）	10
ゾラ	ジエルミナル	70

ハインドマン	社會進化の過程	,15
山川均	辯證法的唯物論とは何か	,10
近藤榮藏	失業と無產階級	,15
山川均	勞働組合運動の新方向轉換	50
スタリーン	プロレタリア政治學	,60
近藤榮藏	新勞農黨批判	,20

□最近刊書□

山川均	無產者講話（最新刊）	,50
無產社編	プロレタリア歌曲集（同）	30
同	何から讀むべきか（同）	30
高瀨清	合理化と無產階級（近刊）	,10
マルクス	共產黨宣言（同）	,60

□小形パンフレット□

小伏濱太郎	今の世の中	,10
堺利彦	いかけ松	,10
荒畑寒村	停電	,10
堺利彦	一休と自來也	,10

330
454

昭和五年八月十五日印刷
昭和五年八月二十日發行　【定價三十錢】

東京市麹町區麹町八丁目二十番地
編輯發行兼印刷人　堺　眞柄

東京市麹町區有樂町一丁目四番地
印刷所　早瀬印刷合資會社

發行所　東京麹町八丁目二十番地
振替東京二四六二六番　無産社

3,000

□ トリレフンベ題問人婦 □

堺　利彦　婦人問題の本質……10
近藤榮藏　新ロシアの婦人……10
山川菊榮　婦人と無産政黨……10
堺　眞柄　婦人運動史……10
綠本貞代　勞働婦人問題……10
山川菊榮　無産階級の婦人運動……10

◇この他社會問題に關する內外書籍の御取次をします。圖書目錄『名著だより』は二錢切手封入御申越次第御送りします。
◇月刊『赤い星』は一部三錢年三十錢、入門書として最適のものです。組合及び政黨の教育宣傳運動に、廣く活用されてゐます。新刊紹介、隨筆、書籍に關する質問欄が本紙の內容です。
◇當社發行の購讀券は五十錢、一圓、二圓、三圓、五圓の五種に分たれ、十錢の切符をそれぞれその金額に應じて綴つてありますから、書籍注文の場合は振替や爲替の手數が全然省かれて、便利重寶です。尙諸種の會合の賞品として利用されてゐます。（これは勿論他社發行物の場合も有效です）

定價三十錢